

○名古屋警察署下罹災
 炎總計死者百八十八人、負傷者二百五十八人、全潰家屋凡八百戸、半潰同五百六十七戸、同署直轄部内死亡六十九人、負傷七十三人、

全潰家屋八十七戸、半潰未詳、門前町分署管内死亡十八人、負傷四十一人、全潰百六十一戸、半潰百七戸、石町分署管内死亡二十九人、負傷十五人、全潰八十六戸、半潰未詳、江川分署死亡六十四人、負傷百二十一人、全潰五百二十戸、半潰二百五十八戸なりと云へば取調時間の早晚に随て多少の増減あれば些少の誤謬なきを保せざる可く、を記して以て確報を待つ。

及
 奏

●震災の損害高
 本縣下に於ける震災の損害高の概してより、本紙に記載する所なるが尙最近の調査に依れば其損害高は實に左の如し

- 堤坊の崩壊 十八萬九千有餘間
- 道路の破裂 六十七萬七千八百有餘間
- 橋梁の損傷 二萬六千六百六十坪
- 種々の破損 七百四十六個
- 山嶽の崩潰 九十四個
- 溜池堤坊の欠損 四萬七千八百二十間
- 海岸堤坊の崩潰 四萬三千二百十五間
- 家屋の損害 千二百八十八萬千八百十有餘間
- 工業の被害 百九十九萬四千四百二十有餘間
- 商業の被害 百九十九萬七千二百九十九有餘間

●半田の特報
 半田の地震は、去る廿八日午前六時半大震災にて被害の家屋は半田にて倒家二軒のみ、其他些少の損傷は数を知らぬ。八番に負傷等は更に廿八日六時半の大震より全夜九時廿分迄に三十一回の震動あり廿九日午前一時十八分より午後十二時廿分迄に廿五回あり三十日午前二時廿五分はなかくの動搖にて其後三十日夜迄に七回の動搖あり何れもさしたる震動には無之なれども人皆最初の劇烈に驚怖したるものゆへ夜は野天に一時の借小家を爲して僅かに露を凌ぎ夜を明すあり晝も睡も職業は手に付かぬ人心も何んぞなく怨氣を湧らき酒でも好む者は酒でも呑み丸さり世の一變化も云ふ有様なり。三十一日の午前二時頃より沖鳴り烈しく海岸の者は何れも大海嘯の來らんを恐れ高き所へ家財や女子供を預くる杯なかくなりしが幸に潮も高からざりし。家屋財産の損害は目下調査中なれども未明なれども酒造家及酢屋等はなかくの損害にてありし半田町中の惣損害高にても概ね當萬圓位ならんや云ふ併し知多郡全部は名古屋地方に就

日一月十(大)曆陰

●東濃地震の詳報
 兼て報せし東濃地方震災の状況は其激烈なるは土岐郡にして惠那郡は幾分の緩慢なりし而して土岐郡土岐津町の如きは最も甚だしく潰家五十餘戸其他半潰せし者三十餘戸にして其惨況實に筆紙に盡し難く心は胸々として何れも路外に寝食せり之に次ぎ下石、妻木、市の倉等は何れも震動の氣脈と見へて其被害甚しく其他の町村は幾分か緩にして崩家等も少し又多治見町の如きは他町村に比すれば緩なりし模様なれども鬼に角今回の地震は安政寅年以來未曾有の大震災にして人心大に恐怖し今日に至るも野外に小家掛けをなし夜は太鼓、拍子木、プキキ等を鳴らし斷間なく非常を戒し殊に警察署長を始め署員は四方に奔走して保護に注意せり又當町の如きは目下陶器籠焼立の以前にて室内に堆積しわり又竈内に入れあるの磁器は何れも墜落飛散して原形なく殊に字欠田の竈は其九分は山版と共に崩壊して稲田の中に埋没して一種の奇觀を呈せり尙又今回の震災に依り多治見町に於て損害せしは其金高凡そ十餘萬圓以上にして爲めに倒産の人々多しと云ふ故に陶器商人は恰も商賣は休業同様にして先づ四方の竈元に馳せて其損害を取調べ居るなり右に付大槻土岐郡長は部内の各地村に馳せて其被害の取調に奔走し去る三十日は當町に來り役場員と共に手を分けて四方に奔走取調中

●愛岐二縣重立たる土地被害表 今回の震災に付き愛岐二縣下の都會に於ける死傷を比較するに概略左の如し但し●印は愛知縣とし○印は岐阜縣と知るべし

市町村名	死亡	負傷	居宅倒潰
●名古屋市	一八一	八〇一	三〇六
○岐阜市	二五三	七八七	九九六
●東西枇杷崎	一四七	一七五	一四八
○大垣町	七八九	二七〇	四三二
●清須町	六四	九六	五〇〇
○加納町	一〇六	一三七	九二〇
○笠松町	八五	九八	九四七
○黒田村	九六	一〇〇	五八四
○竹ノ島町	一七二	一三〇	五八七
○熱田町	五六	一五三	五五三
○北方町	八七	二二五	八〇五
○津島町	六六	九一	一〇一
○關町	五九	七五	七四三
○大徳村	五九	三五	八二五
○高富村	八七	一五八	八〇四
○上ノ祖父江	八六	一一七	九〇九
○高須町	一六	二五	三三七
○起村	三八	八一	四六〇
○揖斐町	一五	二〇	四三〇
○稻澤町	一九	一六	四四二
○高田町	三五	一六	二〇〇
○犬山町	三五	五八	五九〇
○今尾町	六八	六〇	五六四
○與村	六一	七一	六二二

●龜崎の特報 尾州知多郡龜崎町の大地震
 況を同地通信員よりの報に曰く廿八日午前六時三十分頃未曾有の大震動其後夕方まで小震十二回夜に入り十一回程にして震災は倒家二三戸に過ぎざ然れども半倒れ又破れ此小庇等の破損所は枚擧に遑せざらむ目下取調中なり且つ煙筒は大小とも大概倒れ其が爲め豪商新美昇平氏の雇女は煙突の身体に觸れて重傷を負ひたり鐵道線にも諸所破損を生じ大修繕をなさば開通に至らざるべし又同町よりは半田地方の罹災者少かるべしと想はれるれど如何にや尙は同町の酒造醬油製造家の大桶は酒甕を震動の爲め漏出夥多しく同夜は町家の人民皆山邊に假小屋を設け徹夜したるなど實に惨状なりし尙ほ委しくは後報

●平井村の特報 尾州西春日井郡平井村よりの特報に曰く全村二百四十戸の内倒家百戸半倒大半にして西定寺、光通寺、庚申堂等も皆倒れ残る家屋は頗る僅少なりと

●津島の特報 大地しんの爲海東西郡役所及び津島警察署等は破壊し郡吏二名、巡査數名死亡し其人家の破壊、人畜の死傷等は其數を知らせ又津島の旅舎某方より發火し數十戸焼失せり委細は次報に掲

●常滑町の特報 尾州知多郡常滑町よりの特報に曰く本月二十八日午前七時地震するも凡そ七分州餘延いて今に至る田地家屋人畜及び陶窯の被害少なからざ然れども同日は地方稅徵集中なるを以て震動の都度々々各家屬々逃出すにも拘はらざ係員は始終税金受取を怠るの色なかりし又當町役場員は擔當六租へ出張して被害の箇所を取調べつゝあると

●大寶村の特報 三州幡豆郡大寶村よりの特報に曰く村内凡そ倒家五十戸、寺院三戸、破壊し即死人三四名負傷者數名あり其他損害少なからざと

●羽根村の特報 尾州丹羽郡羽根村よりの報に曰く本村五百有餘戸の内罹災の爲め現時只四十戸を餘すのみ其他は悉く崩潰推折さる

●田原の特報 三州渥美郡田原村の報に曰く同村は廿八日午前七時十分より震動し七時十六分に畢りたり其震位は東北にして縱橫動なりし神前庭前の石燈籠其他瓦落ち壁破れ人家の倒れ等もあり然し最上一層激烈なりせば人家悉く顛倒すべしと想はれたか中には地盤五寸位ひ破裂したる所一ヶ所ありて同夜は十二回の震動最も近在の災害は非常なるも未だ探り得せ云々

●津島の特報 尾州海東郡津島よりの後報に曰く再昨廿八日午前六時五十分震動を來たし忽ちにして家屋七分通り崩れ三分通りは半崩となり、死亡者は何程なるや未だ其詳細は知るに由なし寺院は三十六ヶ寺の内四五ヶ寺は半崩 其他は悉く全潰せり、其際橋詰町の旅舎山平方より發火し三戸焼失せしが同夜同方には宿泊中なりし海東郡某村々長外一名及び下婢料理人共五人は焼失せり、又下町の加藤直四郎は夫婦子供四人同方泊り合せ妻と子供一人を引抱へ立ち出でしが残り五人は氣の毒にも焼失したりといふ

●田代村の特報 尾州愛知郡田代村猫ヶ洞の池池上下とも堤塘破壊し下流大河の如き水勢にて荒地損所未だ知るべからざるも爲めに濁水の家庭に浸入し其惨状筆端に盡し難し難し取敢て報道すどありた

●山田村の特報 尾州西春日井郡山田村よりの特報に曰く地面三尺程破裂陥落し家屋數戸埋没し且つ當村家屋十の九は悉く倒潰せり其他瀬古外諸村とも倒家何れも無數

●豊橋の特報 尾州豊橋に於ける震災の概況は既に報道せしが其後の模様を報せん同日湊町煙州製造人原田萬久方の職工某(名不詳)は荷解場の破解せし爲め庖及箱の角にて左の腹部を打ち即死せしが同人は此凶報に接し忽ち發狂して自から死せんとするの模様あり其他には崩家七戸ありしのみにて左したる損害はなかりき

●新城の特報 三州南設樂郡新城町よりの特報に曰く、當町に於ける大地震は被害の甚だしき所に比すれば左程驚くにも及ばざれど家屋の小破、塀の轉倒位にて別に負傷者どもなく先づ無事にてありし

●豊川の特報 三州寶飯郡豊川村の報に曰く當村は再昨廿八日午前七時二十分頃より震動を來し四分間にして止み其後は小震絶へず人心胸々たり、妙嚴寺内の石燈籠は悉く顛倒し外に倒家一戸、牆壁の破壊等は枚擧に遑まわらざ尙ほ詳しくは聞込み次第報せべし

●知立の特報 三州碧海郡知立町よりの報に曰く當町に於ける大地震は他地方に比すれば差したる程の損害もなかりしに當町民は非常に喜び居れり云々ありぬべし

○沼澤警察分署の報 尾州中島郡は災害甚しきを以て之れが景況を報道せん

所々も災民救助の爲め未だ詳細なる報告を得ざるが今同郡沼澤警察分署長近藤警部より本署への報告を左に掲げ同地惨情の一端を示す

(前略)沼澤町の概況不取敢及報告候處震災當時の状況は震災中所々大地龜裂し其裂口より泥水噴出し之れと同時に各戸の井戸噴き出し爲めに往末一時川の如く右に付井水は孰れも瀧盡し殆んど飲用水に差支ゆるも幸に一二戸の井戸水満足を以て之を共用せり又郡長より各村落へ目下の救助を要する爲め一時小家掛及び焚出し方を進せり人民は多く竹藪又は神社の森等に小屋掛を爲し漸く雨露を凌ぎ居り候本日報告の後ち郡内の状況尙ほ取調候處別紙の通りの概況に俟條此段再び及報告候云々

別紙沼澤町大字沼澤樓木倒家百四十七戸 死者二十八人負傷六人 光堂村大字天清水 死者二十八人負傷六人 一戸死者十四人負傷 淺井下窪倒家百九十一戸死者十四人負傷 者九人負傷者二人 國府宮村大字松下國府 二戸九人負傷者一人 一戸死者なし負傷者二 八 一治村大字高御堂小池正明寺倒家百十 五戸死者六人負傷者一人 大塚村倒家百 十八戸死者一人負傷者二人 三宅村倒家百 十八戸死者一人負傷者三人 一死者二十八 人負傷者五人 四家駐在所部内倒家及半倒 三分の一死者六人負傷者三人 吉田駐在 所部内倒家及半倒凡三分の一死者二十 四 人負傷者不詳 國分駐在所部内倒家及半倒 凡三分の一死者九人負傷者不詳以上惣 計分署直轄倒家七百三十二戸にして四駐在 所部下の分未詳死者百二十八人負傷者 百二十八人負傷者

○岩倉村の特報 尾州丹羽郡岩倉村よりの特 報に曰く、本村に於ける惨狀は實に筆端に盡 しがたく先づ概略の死亡者は百二十拾餘名、家 屋の倒れ家は數戸を除く外は悉皆破壊せり

○小折の特報 尾州丹羽郡小折村よりの報に 曰く、倒家は八歩通りにて死亡者は十六七名 負傷者は未だ詳細を知るを得ざれば追て聞 き込み次第特報すべし

○西大海戸村の特報 尾州丹羽郡西大海戸村 の災害は非常に家屋の破壊、人畜の死傷は 夥多し尙れ追て特報せん

○彌富警察署の報 尾州海西郡彌富警察署よ りの報告書中より振擧げて被害の大要を左に 示す

▲小家 住家七百二十六、倒家八百七十七、 土藏十三、役場四、駐在所一、學校六、社殿八、 寺院四十、説教所二

▲半井 住家六百三十六、倒家百〇四、役場 一、駐在所三、學校一、寺院一

▲堤防破壊 後田川用水路兩側全潰、木曾 川堤防七、佐屋川堤防十一、善左川堤防一、 海岸堤防九

▲橋梁 沼落九、杖繩破損十三、國道破損四 縣道破損三

▲壓死 三十三名、負傷者十七名

▲横須賀警察分署の報 地多郡横須賀分署長 からの報告は左の如し

(前略)震災被害多し小損害取調中部内名和 村最も甚しく東南部は稍輕し前例を鑑み海 嘯の來らんと恐るれ且つ小震の止まる爲め 郡民其堵に安せ或は屋外にて炊食を爲 すものあり専ら警戒中 大府以下四ヶ村報 告なきも大損なし、鐵道は各鐵橋の土臺破 損の爲め低落したる箇所多く天白川に架せ たり、如き土臺二尺許陥たり

震災彙報

十月廿八日午前六時卅 八分五十分の大地震に就ては名古屋市を始じ

め各地の死傷者及び倒家等頗る多く安政元寅 年以來絶てなき大地震なれば本社は直ちに號 外を發せんかと思ひしに號外は愚か本日の本 紙すら發刊するに能はざりしは誠に遺憾なれ ども多くの職工中には家を倒せしもの負傷せ し者親戚中に死亡せし者すら心向々として業 に就く事能はざりし者客其情狀を諒察して寛恕 され抑も今回の大地震に就ては電信の不通な る爲め其事情を詳悉するに能はざれども尾瀨 兩國を最中心とせし者の如し故に東部は愛知 郡より海東、海西、中島、丹羽、葉栗を始め 濃州笠橋、岐阜大垣等の各地尤も甚だしきも の、如し左に聞得たる所を列記せん

▲名古屋市中に於て昨夕迄に取調成りたる死 亡者は百八十三名(尾張紡績は愛知郡に屬す) 負傷者二百五十四名、倒家八百餘戸、半倒家 六百餘戸なり今震災の慘況を摘記すれば榮町 通りにては煉化造にて鐵峨たりし名古屋郵便 電信局は瓦解して死亡者の遺骨現はれたる者 四名、其他死生知れざる者あり又負傷者あり 其れに其東隣家なる秋琴樓の廣座敷も倒れ尙ほ 其他に倒家多し縣會議事堂の家棟も東側にて 半より墮落せり、縣廳裏なる英和學校即ち新 美以美教會にて教師ハンタウク氏夫婦負傷大 石夫婦本多壽雄氏其他一名死亡負傷者あり し縣廳北なる美以美教會にては牧師美山眞一 氏夫妻の負傷、其他各町各所に倒家多し瓦の 市内路傍に掃き集めたる所は雪後の掃寄に等 し災害尤も甚しき内に清水、巾下邊にして 旭廓にも倒家數棟あり堀坂にて壓死せし者 三四名あり、東西兩本願寺別院とも土塀は倒 れ瓦は飛び石及び紫銅の燈籠は悉く倒れ市中 各戸とも石燈籠は大略倒れたり又同夜同市中 内は各町到る處夜警を設けて翌朝に至るまで 間断なく大用と手直しをこころし

震災彙報

豊稻、長友貞藏の兩氏は丹羽葉栗郡へ、足達

繁者、川島爲美、安井觀實の三氏は西春日井 郡把島へ焚出しの爲め何れも出張せり▲愛 知郡の死亡者は凡そ五百名、倒家四百戸外は 折豐村外二ヶ村は民家八分通り倒れたり又 熱田町にては八劍宮の土塀を始め、神戸町熱 田區裁判所より以南海岸迄西側悉く倒家とな る、須賀町興德寺の倒れたる爲め參詣八百餘 名死亡せりとの噂され信僞如何愛知セメ ント會社の煙筒始め工場大破壊し羽城邊は 三分通り倒家となり順つて死傷者多し▲西春 日井郡把島町は震災に繼いで火災至りたる も誰れとて消防に盡力する者なし火勢猛烈な りしかば永田郡長は警察部へ急報し吉田警部 長は直ちに出張第三師團長へ請求して工兵 出張し防火に盡力あり飯田工兵大尉、吉田同 中尉の指揮其宜しきを得たりと同町は三ヶ所 より出火して百餘戸を延焼し死体を燒きし爲 め臭氣鼻を打てり二十九日朝に至るも尙七八 十名の死傷知れる爲め永田郡長より工兵の 出張を求めたれば柳本書記官は桂副團長の邸 に就き請求直ちに出張せり把島の大橋中央 より墮落し通行難し直ちに假橋を架する筈也 ▲名古屋市民等は一般に餘震あらんを氣遣ひ て昨朝來今日に至るまで家屋内に安居するこ と能はせ中にも半潰れに遭ひたる家の如きは 悉く家族を立退かしめて潰後を取片附け飯小 多からざる家にも昨晩前頃よりは諸處に荷 物夜具等を運んで立退き或は宅前の路上に箱 様のもの或は天幕様のもの或は障子圍ひ或は 露店様のもの稍上等なるは椅子テーブル粗末 なる飯小屋などを築きて家族一同餅の如くに 押合へしわひ漸くに坐臥するを得るばかり而 して其處に鐵罐土鍋焜爐などを持出して僅か に炊食を辨せる有様は目も當てられぬ程なり しが只一昨朝震後のハラ／＼雨も僅々十數分 時にして休み其後次第／＼に快晴の日和とな つて以て今朝に至りしことを幸中の幸なり し而して右等掛小屋を營むもの、多きは市

震災彙報

は江川分署の救済小屋用に供する繩絛等を寄

附したる由、愛知監獄の災害は工場五棟、 拘置監一棟、炊事場一棟倒れ囚徒の即死者男 五人女五人同重傷者三十二名輕傷者二十八人 監守押丁各一名重傷又所在不明なる重罪囚 一名ありしと▲又愛知憲兵隊より憲兵を出 張せしめて同監獄内の囚徒を護衛し第三師團 よりは歩兵隊を出して其外部を警戒せり ▲丹羽郡犬山町に死亡二十七人、負傷十九人、 潰家二百九十三戸、半潰二百十三戸、火災四 戸、裁判所半倒れとの急報ありたれども其他 にも漏れたるもの多しと▲昨日高木愛知郡長 より報告は左の如し曰く「本日午前六時四 十分地震に熱田の如きは人家傾倒するもの凡 三百戸梵刹の類覆るもの四ヶ寺(興德寺圓道 寺大法寺西福寺)壓死するもの未だ其數を知 らず就中其最慘狀を呈せしは尾張紡績及びセ ント會社にして其工場約如きは悉皆傾覆し 工夫工女の死傷未だ詳ならずとも四五百名 に下らざるべし而して海岸地方は地面龜折し 塗泥を噴出する所あり之れあり居民は街衢の 中央に赴き避難し其の顛倒を待てり因て目 下一時小屋掛救助等に着手せり郡内一色村同 舍村過半倒家壓死者三四十名あり其他一柳荒 子松葉明德寺も亦之と大同小異にして學校梵 刹の顛覆するもの所々に之れあり熱田以東鳴 海町邊は較や其輕を覺ふ云々同地よりの報 ▲東西加茂、南北設樂、八名、渥美の各郡は 差したる震災なし▲飯那郡御油驛に死亡一人、 負傷一人、倒家二三棟其他差したるとなし ▲海東郡津島町は警察署、郡役所とも倒れ八 分通り家屋倒る死傷者夥多しけれども未詳 なり▲葉栗郡北方警察署も倒る同署部内に倒 家五千戸死傷者二百名餘あり木曾川堤防震 ひ入り一度出水せば殆んど危しとて當村の人 民は大いに危懼せり▲中島全郡は各村七八分 通り倒れたり▲愛知縣監獄にては監内囚人 動搖を防ぐ爲め愛知憲兵及び第三師團より兵 士の出張を求めたり同監獄にては輕罪囚は解

震災彙報

十月廿八日午前六時卅

三分の一、死者六人、負傷者三十一人、一、死者二十四、所部内倒家及半倒凡三分の一、一、死者二十四、人負傷者不詳、國分駐在所部内倒家及半倒、凡三分の一、死者九人、負傷者不詳、以上、警署直轄倒家七百三十二戸、死者四、警署直轄下の分未詳、死者百二十一人、負傷者不詳、

八分五十分の大地震に就ては名古屋を始り各地の死傷者及び倒家等頗る多く、安政元寅年以來絶てなき大地震なれば本社は直ちに號外を發せんとし、思ひに號外は誠々本日の本紙すら發刊するに能はざりしは誠に遺憾なれども多くの職工中には家を倒せしもの負傷せし者親戚中に死亡せし者すらあるが上に活字は悉く顛倒混雜し加之老人心胸々として業に就く事能はざりし讀者に對し報道の責めを盡す事能はざりし看客其情狀を諒察して寛恕あれ抑も今回の大地震に就ては電信の不通なる爲め其事情を詳悉するに能はざれども尾瀨兩國を最中心とせし者の如し故に東部は愛知郡より海東、海西、中島、丹羽、葉栗を始め濃州室松、岐阜大垣等の各地尤も甚だしきもの、如し左に開得たる所を列記せん

▲名古屋市中に於て昨夕迄に取調成りたる死亡者は百八十三名(尾張紡績は愛知郡に屬す)負傷者二百五十四名、倒家八百餘戸、半倒家六百餘戸なり今震災の慘況を摘記すれば業通りにては煉化造にて焼滅たりし名古屋郵便電信局は瓦解して死亡者の遺骨現はれたる者四名、其他死生知れざる者あり又負傷者ありし其東隣家なる秋琴樓の廣座敷も倒れ尙ほ其他に倒家多し縣會議事堂の家棟も東側に半より墮落せり、縣廳裏なる英和學校即ち新美以善教會にて教師ハンコック氏夫婦負傷大石夫婦本多壽雄氏其他一名死亡負傷者ありし縣廳北なる美以善教會にては牧師美山貫一氏夫妻の負傷、其他各町各所に倒家多く瓦の市内路傍に掃き集めたる所は雪後の掃寄に等し災害尤も甚しき内に清水、市下邊にして旭廓にも倒家數棟あり娼妓に於て壓死せし者三四名あり、東西兩本願寺別院とも土塚は倒れ瓦は飛び石及び紫銅の燈籠は悉く倒れ市中各戸とも石燈籠は大略倒れたり▲又同夜同市内は各町到る處夜警を設けて翌朝に至るまで間斷なく火用心を呼ぶに大抵七八人を一伍となし或は拆木或は太鼓鐘などを打鳴し甚だしきは鐵葉の石油筒に小石を入れて地上を引歩き其賑はしき實に祭典かとも疑はれたり▲第三師團司令部の煉化屋は僅かに存するを得たるも到底住居出來ず又歩兵第六聯隊に五名同第十九聯隊に十名の負傷ありしものとより斯く多くの兵營とも多少の損傷ありしものと飛びたるも死亡者なし同夜は同兵營内の庭中に帳幕を張り野宿せり▲同朝愛知憲兵本部にても人民保護の爲め東西へ奔走し晝夜休みなし同夜も庭中へ帳幕を張り事務を取扱へり▲愛知縣廳にては柳本書記官西村參事官等にも同朝來萬般の政務を中止し専ら震災救助上の爲め屬官を指揮し同夜は徹夜せり情況視察の爲め昨日本縣より各部へ出張せしは西春日井郡へ縣屬千賀市三郎、永平久松、村田英熊、松村徳太郎、高橋克守、今村鶴次郎、坂野鐵、岡地劍次郎、東春日井郡へ社本又四郎、幡豆郡へ中島尙質、上泉良藏、丹羽郡へ高橋磯八郎、水野致堯、西春日井郡へ焚出しの爲め津田静七郎、丹羽勉、竹市竹五郎、大野庄五郎、近藤繁、川崎八太郎、成瀬行、愛知郡馬場へ上杉忠明、萩原光清、中川實太郎、海東郡へ原田次郎、海西郡へ芦澤鏡三郎の諸氏出張大休同夜歸郷せり、太田次將松下憲の兩氏は中島郡へ備荒救助金三百圓を、海東西の兩郡へ五百圓を、丹羽、葉栗の兩郡へ三百圓を携へ出張せり又二十九日朝中川實太郎、黒田忠澤、足澤榮三郎の三氏は海東郡津島町へ、鳥澤孝忠、小山高重の兩氏は中島郡へ、松田

豊裕、長友貞藏の兩氏は丹羽葉栗郡へ、足達繁若、川島爲美、安井觀賢の三氏は西春日井郡津島へ焚出しの爲め何れも出張せり▲愛知郡の死亡者は凡五百名、倒家四百戸外は折毀村二ヶ村は民家八分通り倒れたり又熱田町にては八宮の土塚を始め神戶町熱田區裁判所より以南海岸迄西側悉く倒家となり、須賀町興徳寺の倒れたる爲め參詣八百餘名死亡せりとの噂され信爲如何愛知セメント會社の煙筒始め工場大破壊し羽城邊は三分通り倒家となり順つて死傷者多し▲西春日井郡津島町は震災に繼いで火災至りたるも誰れとて消防に盡力する者なし火勢猛烈なりしかば永田郡長は警察部へ急報し吉田警部長は直ちに出張桂第三師團長へ請求して工兵出張し防火に盡力あり飯田工兵大尉、吉田同中尉の指揮其宜しきを得たりと同日は三ヶ所より出火して百餘戸を延焼し死体を燒きし爲め臭氣鼻を打てり二十九日朝に至るも尙七八十名の死傷知れざる爲め永田郡長より工兵の出張を求めたれバ柳本書記官は桂師團長の邸に就き請求直ちに出張せり津島の大橋中央より古原市民等は一般に餘震あらざる氣遣ひ▲昨朝來今日に至るまで家屋内に安居すること能はる中にも半潰れに遭ひたる家の如きは悉く家族を立退かしめて潰後を取片附け飯小屋を其邊に設くるなどして立籠り又左程破損多からざる家にも昨晩前頃よりは諸處に荷物家具等を運んで立退き或は宅前の路上に箱籠のものを或は天幕様のもの或は障子圍ひ或は露店様のもの稍上等なるは椅子テーブル粗末なる飯小屋などを築きて家族一同鮮の如く押合へしあひ漸くに坐臥するを得るばかりにして其處に藥罐土鍋焔爐などを持出し備かり飲食を辨せる有様は目も當てられぬ程なりしが只一昨朝震後のバラバラ雨も僅々十數分つてして今朝に至りしことを幸中の幸なりして右等掛小屋を營むもの、多きは市下の江川以南の路上、同以北の裏地、武平町以北、本町筋の片端より廣小路に至るまでを最と爲し其他南は末廣町の若宮神社及大須の觀音境内、旭廓各町、古渡近傍等北は師團近傍の廣地、東照宮境内、憲兵本部地内等其空地價家跡なりしが一昨夜震動の左まで甚しかりざりてしして昨朝に至り追々小屋掛けを引拂ひて自宅に歸るもあり至静かに向ひたれど何分諸家共今同の震動に付き多少破損を免れざりしが爲め概ね出でも行かざりも入らざりも躊躇疑し以て人心胸々夜に至り一昨夜の如し▲同市役所納屋橋東畔の地半徑五間餘の弧形に破壊を生じて踏低落し其一方堀川岸に陥ひ所は如きは同橋の欄干一部及び同橋の東北に接せる巡査派出所礎土の一邊を併せて河中に陥落したり尙同橋以北堀川岸の如きは家屋の河中に向つて倒れし爲めに河岸に浚せざる日本形海船を沈没したる者をも見受けたりとぞ▲名古屋市内の各劇場中本重町の新守座は殆んど全倒れとも云ふべく又南榮名町の千歳座は舞臺の上殆んど半潰れとなれりとのこと▲江川分署管内にては罹災者救助所として中學校、泥町西詰、平野町の三個所に公設小屋掛けを爲し且右校内に焚出し場を置いて切符と引換に食物を給與しつゝあり▲又同署より厚生館へ入療せしめ居る負傷者は四十二人にして其他の同署管内に於ける負傷者は町醫に就て療治し居れり▲五平藏町の渡邊重孝氏は一人にて又兼町の米仲買商柳原榮藏氏は諸有志者と相謀りて何れも罹災の貧民に施食せり又大舟町の近藤由次郎、服部兵助の兩氏

き込み次第特報すべし
○西大海戸村の特報 尾州葉栗郡西大海戸村の震害は非常に家屋の破壊、人畜の死傷は夥多しく何れも追て特報せん

は江川分署の救濟小屋用に供する繩越等を寄附したる由、愛知監獄の震害は工作場五棟、拘留監一棟、炊事場一棟倒れ囚徒の即死者男五人女五人同重傷者三十二名輕傷者二十八人監守押丁各一名重傷者所在不分明なる重罪囚一名ありしと▲又愛知憲兵隊よりは憲兵を出張せしめて同監獄内の囚徒を護衛し第三師團より歩兵隊を出して其外部を警戒せり▲丹羽郡大山村に死亡二十七人、負傷十九人、潰家二百九十三戸、半潰二百十三戸、火災四戸、裁判所半倒れとの急報ありたれども其他にも漏れたるもの多し▲昨日高木愛知郡長より報告は左の如し曰く「本日前六時四十分地震に熱田の如きは人家傾倒するもの凡三百戸焼刺の類獲るもの四ヶ寺(興徳寺圓道寺大法寺西福寺)壓死するもの未だ其數を知らず就中其最慘狀を呈せしは尾張紡績及びセメント會社にして其工場は悉く倒れ工夫工女の死傷未だ詳ならずとも四五百名に下らざるべし而して海岸地方は地面龜裂し塗泥を噴出する所あり之れあり居民は街衢の中央に赴き備に其の鎮靜を待てり因て目下一時小屋掛救助等に着手せり郡内一色村岡倉村過半倒家壓死者三四十名あり其他一柳荒子松葉明徳寺も亦之と大同小異にして學校梵刹の類獲るもの所々に之れあり熱田以東鳴海町邊は較や其輕を覺ふ云々同地よりの報▲東西加茂、南北設樂、八名、渥美の各郡は甚したる震災なし▲寶飯郡御油驛に死亡一人、負傷一人、倒家二三棟其他差したるものなし▲海東郡津島町は警察署、郡役所とも倒れ八分方通り家屋倒る死傷者夥多しけれども未詳なり▲葉栗郡北方警察署も倒る同署部内に倒家五千戸死傷者二百名餘あり木曾川堤防震入り一度出水せば殆んど危しとて當村の人民は大いに危懼せり▲中島全郡は各村七八分通り倒れたり▲愛知縣監獄にては監内の囚人動搖を防ぐ爲め愛知憲兵及び第三師團より兵士の出張を求めたり同監獄にては輕罪囚は解放せしと傳ふる者ありしが右は監房を出したるの誤聞にて重罪囚ども同日は監房外の空に出せし同夜は入監せしめ非常の時はずらに出す準備をなせり但し刑事被告人は同夜監外へ出し野宿させたり又同房倒家多く囚人の死せし者十名あり負傷者は知れざること▲津島警察署は破壊し死傷者も多分ありしならんが混雜の際にて其詳細は未詳の由▲津島憲兵隊所は破壊し問もなく火を失して全焼せり其際同所長は負傷し目下好生館にて治療中なりと又同所長の細君は燒死したるも其屍体は未詳なりと▲又新川憲兵隊所も同時に破壊し同所長の細君は微傷を受け目下好生館に入院治療中なりと云へるゝ其後は如何か尾張紡績會社は、煉化なるより名古屋郵便電信局の如くメチャクチャに破壊され折りも折るとして新舊の工女は更替せんとする際にて無慘にも百有餘名の死者百數十名の負傷者を出すに至りしと云ふ▲今回の震動は江州伊吹山邊最も強烈なりしゆゑ震動の中心は多分其邊なるべしと云ふ

▲西大海戸村の特報 尾州葉栗郡西大海戸村の震害は非常に家屋の破壊、人畜の死傷は夥多しく何れも追て特報せん

●尾濃沿道震害被害の概況 今回の震災に付、某氏は官命を帯び當名古屋より岐阜市間沿道各町村に於ける震害の概況を取調べたる。報告書を得たれば聊か文節を加へて左に掲ぐ。因に記す西春日井清洲以東は既に掲載せしむ。と甚しき相違もなければ茲に略しぬ。

▲清洲町 同町は全部破壊し同町五條橋前後は殊に甚だしく同橋西を去る三町程の處に於て凡そ千五百坪の燒跡ありし。

▲市塲村 は清洲町に比すれば被害稍々少なく往々樹間に介立する半潰の家屋を見受けたり然れども寺院中妙仙寺は倒れざりしも其他の寺院は悉く微塵となり居りし。

▲北市場村 は市場村に比れば尙ほ被害少なきが如し然れども途土噴水土の痕跡あるを見受けたり。

▲六角堂村 は北市場村に比すれば被害甚だ多く殆んど全村の家屋は破壊せり偶々樹間等に介立せる家屋ありと雖も皆致れり半潰にして到底修繕を加へるには居住するに能はざる如く見受けし。

▲下津村 は全潰家屋は稍々少なるも破壊せざる家屋は皆斜立して危険少なからず殊に下津小學校の潰れたる様は實に名狀すべからず。

▲赤池村 十數戸の少村なるも悉く全潰し備か一戸の斜立せしものありし。

▲高木村 は戸數は三十戸餘りなるが中五六戸の外は悉く破壊し村はづれより數町の間街路に沿ふ小川の流水漲溢し且つ路上震裂間より噴出せし土砂を混じり橋梁へ四みたる街路より尺餘出して乗車のまゝ通せし花田村に至り十數間の間に噴水せし痕跡ありき。

▲一宮町 は各沿道町村に比すれば實に其慘狀名狀すべからず官舎は勿論民家は殆んど潰倒せざるはなし眞清田神社は未だ社其他社務所を除き其他は被害少なく區裁判所は附屬屋の少なるもの備か一屋を存し憲兵屯所は支柱を以て備かに支へ警察署は全部を潰倒し民家等數十戸の存在あるも多くは斜立し偶々直立せるも噴水土の爲め礎石を下げ或は埋没する等再び居住に耐ゆべきもの稀にして噴水土の甚しき未だ此の比を見ず潰家及び家財其路上に散乱し乗車の儘通過するを得ず (以下次號)

●愛知縣廳の措置 (承前)

●葉栗郡概況 本郡の概況は西春日井郡に比し尤も甚しく地盤は到る處崩裂し中には裂け又水會川堤防の如き殆んど皆破れし中裂しきは陥落の爲め原地と高低を同せり一朝出水あらば全郡忽ち木會川流域たるを免れざるの虞あり且震災の當時は米麥に乏しきより縣廳に廻米を請求し又焚出所を各村に設け畑地に生殖する陸産物を以て一時の饑饉をなしたり其備荒儲蓄金を使用せしは千五百圓と白米三十七石四斗なり又同郡の救受たる負傷者男二百五十三名女二百三十一名小兒九十二名なり又黒田村に治療をせしけ醫科大學より出張醫に治療を受けたる負傷者は男百三十四人、女百八十七人、小兒二十二名なり

●中島郡概況 本郡の震災は葉栗郡に彷彿たり又一の宮、奥村、起原、祖、橋、原、各町に米穀に欠乏せるを以て郡廳に廻米を請求し各村に焚出所を設け、困窮者に食料を供給し、同郡は縣下の金額は實に壹萬五千八百圓白米五石二斗の多額に至れり又負傷者は起原、橋、原、祖、父、江、奥村の五ヶ所に治療所を設け、

●甚目寺村震災通報 海東郡甚目寺村の最も劇烈を極め總戸數三百三十八戸中全潰百九十六戸半潰八十戸破損四十四戸學校全潰三棟寺院全潰七十二棟村役場全潰一棟駐在所全潰一棟死亡十五人負傷者九十九人なりし。▲赤十字社病院出張所の風に開設以來近傍各村來診患者總數二百五十五人入院患者十三人出張醫長は西村佐五郎氏初着藤澤支部出張醫松枝敬三氏等努力一片ならず患者は何れも其懇篤なるを拜謝せり殊に剛使北條侍從の一行御巡視あり 皇后陛下より長崎宮内秘書官を遣され且又小松宮殿下の御巡視ありて患者に夫々金員を賜ひ又桂侍醫の一行も親く患者を診察あり其他佐野赤十字社長中濱、佐藤少醫博士の見舞等ありて其思惠の優渥なる一同感激涙み咽びけり▲救助は最初焚出米を出し夫より食料等を與へ且東京今小路阿部初藏氏より金十圓甚目道酒之助氏より金一圓を全罹災人民へ寄付せり又高等小學校は全村有志者の協力によつて小屋掛を爲し去廿四日授業に着手せり尙又全村有志者は赤十字社出張治療所醫員等の懇篤なるを謝せんが爲り不取取謝状を該社長に呈する由

●海東郡概況 本郡は西春日井、中島、葉栗に比し被害は強からざりしも中央より東北に掛け其害多く津島、壱江、萬場等は一層慘狀を呈し道路、堤防、橋梁の破損甚だ多し津島町は出火あり焼失の建物少からず被害の多き各村には焚出所を設く備荒儲蓄金貳千六百貳拾五圓壹錢六厘を以て被害人中貧困者を救護したり又津島、甚目寺の二ヶ所に治療所を設け愛知病院、赤十字社支部醫員、群馬縣有志醫員の出張治療を受け其治療を受けたる負傷者は男百四十二人、女九十五人、小兒二十九人なり

●東春日井、海西、知多三郡の概況 此三郡は前記の郡市に比すれば稍緩なるが如しと雖も東春日井郡は小牧、瀬戸、海西郡は其東北方の部落尤も甚しし而して東春日井郡瀬戸其他知多郡常滑等の陶器は殆んど皆潰れしくも本年中は陶器を製出するを得ざるべし道路、堤防の陥没、壊裂并橋梁の破損も亦甚しとせせ又死亡、負傷者の數も亦尙からず即ち東春日井郡は負傷者二十六人、海西郡は負傷者三十三人、知多郡は負傷者十七人あり而して其負傷者は郡内開業醫に治療せしめたり又備荒儲蓄金を使用せしは海西郡が千五百拾三圓、東春日井郡が千五百圓、知多郡が貳百圓にして孰れも之を以て假小屋、焚出所を設け被害人民を救護せり

●碧海、幡豆、額田、西加茂、寶飯、渥美の概況 此六郡の震動は前記する尾張地方に比すれば幾分か輕かりしが故に隨て其被害も少なきが如し然れども堤防、道路、橋梁の破損は尙なしとせせ西加茂郡は五ヶ所に山崩ありしも幸に死傷人なし、碧海郡に於ては負傷せしは三人、幡豆郡は負傷者十六人、額田郡、西加茂郡は死傷なし、寶飯郡は死傷二人、負傷四人あり而して幡豆郡は被害人民救護の爲め備荒儲蓄金を要せしは金貳百五十圓なり其他は町村に於て夫々救護したり(完)

●震害都市別一覽表 今愛知縣警察部に於て調査せし表の左の如し

震害都市別一覽表

明治廿四年十一月十日開

愛知縣警察部

郡市名	現住人口		計	重傷	輕傷	牛馬現住戸數	全價	住宅	土藏	社寺	其他	計	全燒	住宅	其他
	男	女													
名古屋市	1,533,590	1,533,590	3,067,180	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
愛知郡	235,640	235,640	471,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東春日井郡	77,640	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西春日井郡	77,640	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
丹羽郡	77,640	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
津島郡	77,640	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中島郡	77,640	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海東郡	77,640	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海西郡	77,640	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
知多郡	77,640	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
尾張國計	1,533,590	1,533,590	3,067,180	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
碧海郡	77,640	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
幡豆郡	77,640	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
額田郡	77,640	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西加茂郡	77,640	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東加茂郡	77,640	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北設樂郡	77,640	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南設樂郡	77,640	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
實飯郡	77,640	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
温美郡	77,640	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
八名郡	77,640	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三河國計	77,640	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
總計	1,533,590	1,533,590	3,067,180	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

備荒儲蓄金を以て罹災者救助の爲め十一月十日午後四時迄に本廳より交付せし金額は名古屋市へ金七千八百七十五圓一錢六厘愛知郡へ金二千三百圓春日井郡へ金二千五百圓西春日井郡へ金五千圓丹羽郡へ金七百圓津島郡へ金七千六百圓中島郡へ金一萬五千八百圓海東郡へ金二千三百四十七圓海西郡へ金千五百五十三圓知多郡へ金二千圓幡豆郡へ金八百五十圓實飯郡へ金五十圓合計金四萬五千三百七十五圓一錢六厘米穀購入し得たる村落に限り特に請求に依り米穀を交付せし愛知郡へ白米八石西春日井郡へ同十五石津島郡へ同八石支米二十九石四斗中嶋郡へ白米五石二斗合計白米二十九石支米二十九石四斗にして此代價運賃の金額は五百四十三圓九十錢三厘なり

新 城 金 日 報 木 日 九 十 月 一

全潰二百一十一戸半潰二百四十二戸倉庫全潰二十四棟半潰百三十六棟社寺全潰十棟半潰二十一棟其他建物全潰六百六十一棟半潰九百二十五棟八畜の死傷數は壓死人五十六人負傷者百五十三人畜牛の壓死一頭にして震災當日即去月廿八日より卅一日迄四日間以全郡役所に請求して罹災窮民救助の爲めに救出を爲したるも餘震未だ止まず人心恟々として人民其業を營む能はざれば此儘にして拾遺たらんに比或は御幸の途に横はるの慘狀を現出するに至らんとす爰ひ全町役場にては其翌一日より十日間全町の基本財産中窮民救恤費に充てたる金額の幾分を支出して更に引續き救恤を爲したりしが其郡役所に請求して救出を附與したる救助人員は千九百四人其石數十五石二斗三升二合全町基本財産より支出して救助せし人員は千五百人其石數三十石而して目下小屋掛を出願中の者四百七十七戸米の給與を出願中の者五百五十三戸ありと云へり

郡市名	現住人口	計	重傷	輕傷	牛馬現住戸數	全價	住宅	土藏	社寺	其他	計	全燒	住宅	其他
名古屋市	1,533,590	3,067,180	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
愛知郡	235,640	471,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東春日井郡	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西春日井郡	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
丹羽郡	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
津島郡	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中島郡	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海東郡	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海西郡	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
知多郡	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
尾張國計	1,533,590	3,067,180	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
碧海郡	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
幡豆郡	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
額田郡	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西加茂郡	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東加茂郡	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北設樂郡	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南設樂郡	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
實飯郡	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
温美郡	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
八名郡	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三河國計	77,640	155,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
總計	1,533,590	3,067,180	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

Handwritten notes and calculations at the bottom of the page, including numbers like 16000, 16000, 32000, and 40000.

震害郡市別一覽表

明治廿四年十一月十日調

愛知縣警察部

Table with columns for location (郡市名), current population (現住人口), deaths (死亡), injuries (重傷), and housing damage (全損, 半損, etc.).

池田 三井 三井 三井... 東京 神田 須田 盛林堂 佐野半兵衛

Advertisement for '無類のくすり' (Unparalleled medicine) by 佐野半兵衛, claiming to cure various ailments.

ぜんそく根切治療 (Cough treatment advertisement)

Advertisement for '羅羅丸' (Rororin) medicine, listing various ailments treated and agents like 大木幸太郎 and 伊澤弘芳.

熱田震災の詳報

Main article text describing the earthquake disaster in Notohira, including details on damage and relief efforts.

Table titled '中島郡震災概況一斑' (Overview of earthquake damage in Nakagama Prefecture), listing village names and statistics.

Handwritten notes and calculations at the bottom of the page, possibly related to the disaster statistics.

○猫ヶ洞の崩壊 今回の震は西北より愛知の西北部を重し東部は餘程に軟弱なりしゆへ一向東部の方を崩れ見せりしが茲に愛知の東部にて有名なる用水後の猫ヶ洞の大堤塘は去廿八日の大震の爲め大猫小猫の堤切れどもに漏水溢れ堤を壊し爲めに人家を潰し死亡者あり又その水一旦に流れ出して近傍の道を浸し枝より枝と繋がる川々は一時漏水なし入鹿の大崩れ以来の大騒動なりし由なりされど其近傍に漏水せし處にて左まで入畜は大害はありしといふ

○黒田震報 尾州葉栗郡黒田村よりの報に曰く、本村に於ける惨況は既に報道せしが今又其筋にて取調べたる被害の統計を聴くに、住居家総數千〇十八の内全潰九百九十九、半潰十九、添家總數千二百七十七の内全潰千二百十八、半潰五十九、土藏物置四百十七の内全潰三百九十八、半潰十九、死亡者九十六、内男八十六、女四十三人、負傷者百八十三、内男八十六、女九十七人、寺廟十五、損壞九、皆學校三、皆潰、役場一皆潰等なりと云ふ

○大山震報 尾州丹羽郡大山町まりの震報に曰く、今回の震災に付き居家全潰三百五十、同焼失四、同半潰二百四十八、添家土藏等全潰三百二十、同半潰二百七十、死亡三十五人、負傷六十六人、外に神社佛閣、庵舎、井戸等四十餘個所の破損あり、有名なる白帝城も西部に大破損を來し到底修繕の見込なし、警察署、裁判所出張所、常小學校共悉皆破壊せり、大山社と稱する製糸場は昨年來蒸溜機關を据付け五十八人取及三千人取の二製糸室を新設したるに是亦悉皆破壊して修む可からず、當町の名産忍冬酒製造家も同く、德授寺の境内に新築して頗る繁昌なりし國三十三所觀音堂も本堂と共に破壊せり、去六月御使北條侍從巡視の際負傷者後藤をい、武内ぐらの二名を親しく慰問あり、町民一同、聖恩の優渥なるを感じたり、東京赤十字社本部醫員數名來町施療しつゝ、あれり、震災救助の爲め金銀を義捐したるは金三百圓、齋天山齋主從四位成瀬正肥(金拾圓)、飛州高山町日下部三郎(金五圓)、當町長丹羽鐵藏(同上)、當町山學校長小出良虎(白米二俵)、當町寄留大藤三郎の諸氏なり、町民一般は固より、裁判所出張所、警察署、町役場員等孰れも假小屋に在て漸くに雨露を凌ぐのみ

○海東西震報 尾州海東及び海西郡に於ける震災被害者は海東郡内全潰社寺四百四、民家七千五百四十九、半潰社寺三十七、民家三千八百一、壓死者二百八十八、負傷者重百〇三、輕貳百十四、海西郡内全潰社寺五十七、民家千八百五十二、半潰社寺十九、民家三百九十五、壓死者三十三、負傷者重二十二、輕六なりと云ふ

【岐阜縣下穂ノ山谷の慘狀】 同縣下根尾谷の慘狀は、既に世人の知る處なるが此頃に至り同縣下三大川の一なる揖斐川の源流に沿へる穂ノ山谷は根尾谷と伯仲するの慘狀に陥り居るを發見したる由今其實況を聞くに全谷は北方村以北越前境迄凡そ十八里間なる揖斐川筋の兩岸震災の爲め非常に崩壊して其土砂は山腹に堆積し或は河中に陥落したるものありて河床一面に埋没しあるを以て一朝大水あらば一時に下流に押し出し西濤十數里間の稻田は到る處堤防よりも高き土砂を堆積して忽ち全地方民は生命財產を亡失するの恐れあり加るに震災の爲め兩岸の山々崩壊して道路通せず震災後一時は僅に小道を造り血氣の男子にて二斗位の米を負ひ漸く通行したれども去月廿七日より引續き降雪あり爲めに雪と共に土砂を流し地震の後よりも一層甚しき害を興へたれば今日にては北方村以北は先づ不通の姿となり米麥と食糧の缺乏を告げて今や貧富の別なく飢饉に迫りしかば郡衙警察は専ら救濟策を講じ御岐縣へも急報して救濟を請求する等慘狀を極め居れり又同山入口より凡そ數里遠隔の奥に當れる徳山村の内大字塚村は戸數三十戸の處降雪の爲め山崩壊し二十六戸は人も家も地下に埋没せりとの報郡衙所に達せしかば郡衙警察は急行して實地取調の爲め出張したりと云々

送する事となり猶ほ縣下にて大垣、笠松關の三郵便

【五百戸に即死者六十餘人】 安八郡墨俣村のしんさい者は縣下に於ても慘劇中の頗る慘劇あるものにして五百戸の一村中僅かに半ば倒潰して持てたへしもの二戸を除くの外他は悉く粉な微塵に倒れ六十餘名乃即死者百九十名の重せう者を出したり去れば瓦石梁柱の間に痛く負せうして半死半生となりし者の絶叫悲鳴するの聲天に答へ地に徹し有りとしのこ聞ける阿眉焦熱の苦しきも争でかは是れに及ぶべきかと思はれたり同村の醫師加野松溪氏の危うく生命に恙なきを得たりければ直ちに負せり者を治療せんと心ばりは逸れども家は微塵に碎かれて器械藥品一として取り出す事の叶はざれば狂奔しつゝ人夫を驅り集めて屋を發き僅かに二瓶の石炭酸を得たれば鬼の首をも得し面色にて直ちに治療に従事し自他の區別なく或は手拭を割き衣服を解きて縋帶ともし同地派出所詰の巡查當摩、白木の二氏と共に寢食を忘れて土塵煤烟の間を奔走したり然る所に去る三日より五日に至る三日間京都の醫師嶋田彌一郎氏一名の藥劑師と伴ひ器械藥品等を携へ來りて應援せしめ加野氏も茲に初めて一息吐きたる程ありしと云々同村が非常の慘劇に陥ひたるを追想し得べきなり

水鳥の陥落地 今回の震源と認むる岐阜縣根尾谷水鳥の陥落地を探險せしもの、言によれば陥落地は都谷二ヶ所あり一は七難より西光寺に至るもの一は西光寺裏より對岸板所村字下川原に至るものにて七難より西光寺に至るもの、長さ凡そ十町許家となく人どなく山も耕地も一面に陥落したるものにて此山は大野郡の中央を貫く一帯の山脈なるが此高山大嶺が陥落したるといふ實に奇中の奇、怪中の怪なるものにして世人の容易に是れを信せざるべきも耕地の一面に割然として陥落の形跡を存しつゝあるにも拘はらず山の一面に依然舊の如くにして毫も陥落の形跡を認めざるを以てすれは山と共々陥りたるや疑を容れず又土地の人も就き樹木岩石の位置及び彼我高低の度合等を尋ねたるが山も共に陥りたりとの事、一人として争ふものなし而して茲に最も奇なる陥落地と陥落せざるものとの分界にして恰も鋭刀を以つて豆腐を切斷したるの如く片土細石をも亂さず一直線に陥落し居れるの實に美事にして該地に時付ありし大根が上下井然として形を亂さざるも不思議とこそ云ふべけれ又西光寺裏より板所村に至る陥落地は幅三町長、五町許にして根尾川の河底より平地に陥落し居れり此箇所は前の箇所と接續しあるも其實別個のものにして前の箇所は凡そ二丈許、南下りに陥落して西光寺に至る陥落地の中下りに陥落し居れり根尾川の東南端なる最口より流れ出づる地盤の非常な陥落せしと平地山の崩壊せしとにより水量漸く増して現時深さ二丈もあらんり是れを土人は聞く一丈五尺の等を挿入せしも底に達せざりしと又以て其深さを知るべし又水鳥村の村の北西南三方悉く陥落して僅く中央より東方に掛けて一面を存したる事なるが此存在地の陥落の波動より受けし現象として中央の一の堤塘状隆高地を現出せしと云ふべし該所川敷に當る地の東方の一角僅く水を溜りし同郡春木根尾川の水平線より凡そ六七尺高處あり云々

其の向山(高さ一丁半幅三丁餘)は今回の大地震にて四方に裂割し其割目の中より煙燻のものが今も立上り居る由にて其筋まては斯と聞くより直ち實地を取調べし此の全く水蒸氣あらんとの事あるが今朝大雨を來さば尚ほ破裂をば模倣さざるもあらざれば近傍の村民は孰れも恐怖し居る由又同郡土田村西北南計の箇所全体に陥落せり其深さ一尺乃至三四尺なり帷子村及び土田村の一部の地震後俄か井水乾涸し中より飲料水は困難なる者あるに至れり兼山丁地内木曾川水中に於て大地震以來震動ごとく硫黄氣を含有せる水少許づつを湧出せ其臭氣硫黄質又相違なきといへ帷子村字古瀬福田寺前なる高さ二十間計ある山岳の中央深さ三間巾凡そ三十五六間長さ三百間計り陥落し之れを爲め一の溪谷を形造り夫れより凡そ三十間を隔て二反歩計ある田面凡そ三間餘俄か崩起し一朝大雨ある時の其崩壊圍るべからざると云へり

加茂郡之惨状 加茂郡追分村宇上追分(各務郡)に接する處の山岳は九合目の處にて(面積凡そ二里程)神嘗の舞に崩れ九合目と十五分開噴水し居たり又西田原村宇東原村にては一個の井戸を残したるのみよて其他の井戸は悉く涸れ飲料水に困り居ると云ふ又同村の山岳が崩れて近傍の溜池を半分通り損りたるより該池の水が二ヶ所より欠損して田地凡そ二丁餘の處を荒蕪に屬せしめたり又大平賀村處の田圃中より米を嘗て取ざる土砂を吹出したり尙追分村、勝山村等にても右同様ある土砂を吹出したる

●武儀郡しんざい概況 同郡にては當初しん動を起すや忽ち同郡役所備付の敏しん器を破壊し敏動凡そ十分及び爲りに郡内或はは家屋を倒し或はは牆壁を破り瓦礫を落し岩石の崩壞、道の橋梁の破損等枚舉に違わらず且つ上有知町を距る僅か二里ある關町及び倉知村の如きは殆んど全町全村を潰し人畜の死傷又た多く加之小金田村倉知村地内に於て長さ凡そ一里餘町中五丁程は地盤起伏し其の尤も甚しきは地平を陥落する事五尺より一丈に至るのヶ所あり二十八日より去る三日までは一日百數十回のしん動ありて時々強まると覺へ今に至るも尙は日々數十回のしん動を感ずる由

●金華山は異状あり 今かいのしん動に依り菅市金華山に大いなる穴を生きたりやと浮説する者あるより其の實否を糾さん爲り岐阜測候所長井口龍太郎氏は昨七日同山に登り各所を細密に取調べしに別段穴の生ぜし箇所は無く唯だ絶頂の城趾近傍に數ヶ所のしん動れあると巨岩石の墜落せし所ありしまでの事ありしと

山岳崩壞 中仙道筋の便道(各務郡)にして宇法橋寺と稱する處の山岳長百五十間崩壊し爲り近傍の河川に架しありし橋二ヶ所流失したりと

●溜池の破壊 各務郡瀧沼村宇谷戸と稱する處の大なる溜池の堤長五十三間幅十七間破壊し爲り水溢れて近傍の田畑を荒し被害の反別は凡そ三十五町歩にして夫が爲り通行も不便ありと

●安八郡邊候村惨况 安八郡邊候村はせん村戸一萬四千五百餘戸の内麗野の屋四五戸を除くの外、悉く全潰せり死六十七人負傷輕傷は無數にて重傷者二百七十人餘焚出所は加野篤次郎氏家畑及び西町八幡社境内にあり又勅使下向の御願の同村を經ざるを遺憾とし有志者は是非とも下向あらん事を鈴木郡長を經て請願せり若し下向あるに於てはしんざいの實情を獻附せんものと大垣町高良爾好美館を呼び寄せて大阪五枚を撮影せり

郡上通信 廿八日の大地しん動天柱折れ地盤裂け家屋を破り人畜を殺し縣下の慘狀實に酸鼻に堪へざる處あるが幸し郡上郡は其損害少かりし然れども山上より岩石を墜下し石垣を壊し壁を破りたる處少からず今見聞の儘を左に記載せん

本郡八間村宇風穴の茶店池戸源九郎方は屋後岩石重疊するを以て今回のしん動の爲大石屋上に墜下しスツと云ふ間に家は潰れ長根は落ち家族は幸よく逃出しれども其妻を共葬し用ひ舟に舟に幸よく以目下察察中ありといふ右に付下洞村村究會員諸氏は不服金三圓を施與し其送達方を美山村外三ヶ村組合役場へ依頼したり○本郡八幡町の武藤喜一郎氏の製絲場は床下乃石垣破崩したるを以て大に傾斜し一時紅女は倒れしたるも一人の負傷者ありし由先は重疊又脚腫社其他にも多少の損害ありし由ありと甚しきとはならずしといふ○大しん動二夜と云ふものは八幡町の人民は皆自宅に安臥すると能はず除傍中等に居る者も瀧園を放りて夜を明のしたり又市中には火の番を設け嚴重に戒心せよ○二日前郡上郡へ兎漢多人散入込み來り去る一日の夜の如きは八幡町にて放火を企てたるも其意を遂げざりしといふ夫故警察署にては非常に盡力し人民も大に注意戒心枕を高くすると能はず○しんざい後未だ間もあらずに拘らず乞食の増加したるを移し兎漢無類乃徒之に混まて入込み現に去る二日前郡上郡村大澤某方へ一人の男入り來り私は飛州津津の者あるが今回の地震にて家内四人皆壓死したるを以て其野邊の塚を濟まして此の如く合力に参りたりとを唱へ食を乞ひし由○前項の如き好人道々入込みを以て何時如何なる兇行を働らくやも知れぬとして下洞村外七ヶ村組合役場に於ては本月五日常設委員會を開き警察署とも協議の上其取締法を設けたり○郡東村究會員諸氏ハ本月四日臨時會を開き岐阜地方の罹さい者へ應分の義捐金を爲すに決し本月廿日迄に取纏め岐阜日日新聞社へ送附する筈ありといふ○下洞村宇安郡野橋の黒木新五郎と云ふが商用にて武儀郡關町に一泊したる翌朝大地しん動にて天井に敷かれ火災に捲かれ日に危く見へたる婦人に助けられ九死に一生を得て(危傷したるも)歸宅したる命其加の事共あり○信濃國筑摩郡洲原村在の友人よりの報知に依れば同地方は土藏の壁は一として存する者も人民も屋外に小屋を掛けて安心する位ありしが幸に人畜の被害はなしと云へ○飛騨國益田郡下呂村より來りし人の話を聞くに古來より有名な熊所と知られたる中山七里の道路は大に破損し又同郡

馬瀬村宇下山の道路は道上の岩壁崩壊して人馬の通行を妨げたり○武儀郡上知町より郡上郡八幡町へ通する道路中關野陸道及び宇大原に於て二ヶ所の破損を生きたり(其修繕を豫算するに凡そ三千人の日工夫を要するを以て八幡町より五百名の夫を加勢せんと委員を遣ひ其費用を募集せり)右五百人を加勢するに業より偶然にあらざりし日用物品(米、醬油の類)は悉く上有知の手を経て來るものありし由○關道筋の破るゝところは物價立所高昇し細民の困難一方ありと云ふ

ものなりと而して七番坑の海面より高さこと
 三千百二十五尺と云へるが本月十七日午後春時
 三十分ごろ五番坑より六番坑に掛けて俄然坑
 道崩壊し六番坑に入りて鑛物採掘に従事し居
 たる五十餘名の坑夫及び手子と通稱せる坑夫
 の手傳をなす年少の者等は上坑の崩壊に依て
 奔逸し來れ、激しき水勢の爲めに押流され孰
 れも溺死なさん最、危急の場合となりしが其
 の中三十餘名は幸ふじて其難を逃れ僅かに一
 命を全ふせしが残る二十餘名は其儘生死の程
 も分らずなりたり然れば坑長小原儀弘、事務
 長木谷友吉郎の兩氏此の報に接するや直ち
 に他の坑夫を驅集めて是等の溺没者を救ひ出
 さん必死となりて盡力中、午後三時に至り
 八名と降くの外、盡く六番坑より濁水と共に
 出で來りしが其の中武備郡乙狩村平民近藤鎮
 次郎(五七)と云へる手子は左の頬に二寸餘の挫
 き傷と同耳に二寸餘の内股に五寸餘の傷と
 負ひ石川縣能美郡波佐維村平民山黒三郎は微
 傷を負ひ居りしが鐵次郎は既に絶命し居たり
 然るに殘る八名の安否知れざれば兩氏は尙ほ
 五百餘名の坑夫と指揮し六番坑と發して助け
 出さんと夜を徹して其事に打掛り専ら力を盡
 して翌十八日午前十時に至り郡上郡大鷲村
 七十五番戸平民佐藤勝次郎(五七)及福井縣越前
 野田村二十九番地平民倉田仁吉(五七)の死骸の
 坑中の土砂を埋没され居りしを發見したれば
 ち之を掘出し尙ほ其他の六名をも探し出
 さん鐵長事務局長はより巡警等現場に出
 張して奥深く掘さしかを翌十九日午後一時
 に至る迄は更に其の手掛りを得ざりしと云へ
 り又同縣山の今回俄然崩壊せし原因に就て
 は尙ほ目下取調中なりと言へ今同坑に主た
 る人の語る處に依れば何と云ふも天正年間よ
 り今日にまで傳へたる古坑にして土石の崩壊
 せんとするが如き事なしと斷言し難く殊に
 今回の震災に依り坑内非常に割裂せし箇所あ
 りれば或以は夫等原因して斯る不慮の災害を
 惹起せしものならんかの考へなりと云へり

も當ならざりしが全部は南西部數村に建物
 潰倒二棟半倒七棟其他家屋破損のみに止ま
 中央北西にわつてけ全く損害なきもの、如
 然るに尾張及美濃地方は大震災にて死亡數
 人倒潰家屋無數多るに出火所々にありし
 報至るや全地方に幸に災害を免れたるを喜
 傍に被害の慘狀を想像し直ちに義捐金の送
 を郡衙に申出づる者追々に斷はれ尋て被害
 實視の者も歸り來りて其慘狀を語るより
 胸中憐愍の情愈々熾まり既に各村有志者よ
 融出せし金員百五十圓余に及び尙全郡の
 物産なる甘藷糖の如何を譲りたるものあ
 しに何れも大賛成にて忽ちに蒐集するもの
 百八十一俵に及びしかり去十六日之本縣
 へ廻送したるが甘藷の調理甚だ輕便にして
 麥の不足を補ふに適當なるも寒氣に向へば
 取し易きものなれば速に究困者へ配付致し
 く當局者の獎勵なる爲腐敗せし請の萬一に
 あたらんに以て反、謗を受け慈善の精神も
 泡に歸するなむ相愛を抱く者ありと又郡
 各宗寺院に於ては目下所々に法會を修め農
 なるにも係りらず老幼男女の參會するもの
 しく喜捨錢又は物品を寄贈するもの續々わ
 取纏りの上は夫々被害地へ回送するの理
 中なると云ふ

●池田山の崩壊 岐阜縣下池田郡池田山は
 其地質元來赤土に砂利を交へたる者なるを以
 て動もすれば崩壊し易き所なるが今回の震災
 及び南方は善南寺山より北方は秋ヶ谷山に至
 るの間何れも非常の崩壊を生じ彼の西瀨にて
 有名なる大谷山土砂停止の如きは地方税工事
 にて粗ば其効を奏し漸く一兩年來人民少しく
 安堵を得るに至りしも此たび一時に崩壊し其
 被害高凡そ壹萬餘圓なりと尙ほ周圍は多數の
 龜裂を生じ若し強雨あるに際せば必らず壞れ
 て直接に害を及ぼさざる者なく土砂は流水を
 遮斷し堤防を破壊するのみならず灌漑用水を
 濁濁ならしむるの恐も又秋ヶ谷崩壊は是れ
 亦非常にて凡そ十町餘歩にも至らん而して龜
 裂を生じたる一大線は十數町を隔つる段村よ
 り明かに見ることを得べく今後大雨あらんに
 は必らず崩壊し彼の八ヶ間しき池田十四ヶ村
 組合の井水埋没し來年の灌漑は如何あらんと
 大に之れを患ひ目下組合一同實地取調中の由
 なり

●畑佐嶺山崩壊の詳報 全嶺山は岐阜縣下
 郡上郡畑佐村宇鍛冶屋谷にあり天正十八年稻
 葉右京亮、豊臣秀吉の命に依りて始めて開坑
 せしもの、由にて今日の坑數は一番より六番
 に及び七番坑は今尙ほ疏水工事着手中の
 ●八名郡震災後の景况 客月廿八日は未曾
 有の強震にて何れも周、章狼狽人心尙ほ震食
 面目に考れば地震學上の一疑問ならん

●岐阜畑佐嶺山崩壊の詳報 同嶺山が崩壊せし
 の事、電報の傳に據り置きし今特派せし通信
 の報道に依るに同嶺山、郡上郡畑佐村宇鍛冶屋谷
 あり天正十八年稻葉右京亮、豊臣秀吉の命に依り
 始めて開坑せしもの、由にて今日の坑數は一番よ
 り六番に至り七番坑は今尙ほ疏水工事着手中のもの
 りと而して七番坑の海面より高さこと三千百十五
 一番坑の海面より高さこと實に四千七十四尺五寸
 りと云へるが本月十七日午後春時三十分頃五番坑
 り六番坑に掛けて俄然坑道崩壊し六番坑に入りて
 物採掘に従事し居る五十餘名の坑夫及び手子と
 稱せる坑夫の手傳とをなす年少の者等、上坑の崩壊
 依て奔逸し來れる激しき水勢の爲めに押流され孰
 れも溺死なさん最、危急の場合となりしが其の中三
 餘名は幸ふじて其難を逃れ僅かに一命を全うせし
 殘る二十餘名は其儘生死の程も分らずなりたり然
 れば坑長小原儀弘、事務局長木谷友吉郎の兩氏此の
 報に接するや直ちに他の坑夫を驅集めて是等の溺没
 を救ひ出さんと必死となりて盡力中、午後三時に
 り八名と降くの外、盡く六番坑より濁水と共に出
 りし其の中武備郡乙狩村平民近藤鎮次郎(五七)と云へる手子は左の
 に二寸餘の挫き傷と左耳に二寸餘の内股に五寸
 の傷を負ひ山黒三郎(五七)は微傷を負ひ居りしと鎮
 次郎は既に絶命し居り然るに殘る八名の安否知れ
 れば坑長小原儀弘、事務局長木谷友吉郎の兩氏此の
 報に接するや直ちに他の坑夫を驅集めて是等の溺没
 を救ひ出さんと必死となりて盡力中、午後三時に
 り八名と降くの外、盡く六番坑より濁水と共に出
 りし其の中武備郡乙狩村平民近藤鎮次郎(五七)と云へる手子は左の
 に見られ直ちに之を掘出し尙ほ其他の六名とも探
 し出さんと奥深く掘さしかを翌十九日午後一時に
 至る迄は更に其の手掛りを得ざりしと云へり

○多治見震報 濱州惠那郡多治見町の震報に曰く同町陶磁器製造家の焼窯及び陶磁器類は悉く破散して原形を留めざる者頗多を經れば到底新窯を造りて器類を焼出すこと能はざるに付き自然陶磁器の相庭を引上げ日常品の如きは非常に需用を増したれど何れも述の次第にて製山の策なきも元は目下急ぎに急ぎて窯の再築及び其他の修繕に従事せざるもわれど大抵は破産の悲境に陥れるもの如し今今回の震災に付き全潰戸數四、半潰十、二、倉傷者二八、他町村に比して幸ひに罹災僅少なりし△當町小學校は震災に付き大破を來し當分休學中△震動の猶未だ休まざるがゆゑ町内各組に於ては徹夜交替非常を繼むる爲めか大震後今日まで盜難及び放火なし

○震災後の豊明と北崎 尾州愛知郡豊明村大字宇築と知多郡北崎村との間に於ける水路上の高藤は五月間さばかり扶桑にも損壊せしが今以て圓滑に續らば仲親委員たる豊明村曹源寺住職山崎照龍、伊藤平兵衛の兩氏が奔走幹旋も水泡に溺して遂に去六日兩氏より其趣を

○加茂郡の慘狀 岐阜縣加茂郡追間村字上追間(各務郡鵜沼村に境を有る處)の山岳は九合目の處にて(面積凡そ二里程)非常の響と共に崩れ殆んど五分間噴水となり又西田原村字東屋敷にては一個の井戸を毀したるのみにて其他の井戸は悉く涸れ飲池を半分通り掘りたるより該池の水二ヶ所より欠潰して田地凡う二丁餘の處を荒蕪に屬せしめたり又大平賀村處々の田面中より曾て見しともなき土砂を吹出し尙ほ追間村、勝山村等にては右同様土砂を吹出たりといふ

赴前

○福井通信 十一月四日

震災の模様 去る二十八日の震災にて縣下建物の被害及び死傷人の數を擧ぐるに人家全潰三百三十三戸、同半潰三百三十一戸、半潰全潰百六十四箇所、同半潰百三十箇所、小屋の崩潰百二十戸、死傷者は死人八人、負傷者五十五人、其他屋根傾き墜落したるが如きは家並にして福井市中の被害のみにて四十萬圓以上ありと云ふ。○震動八晝夜 大震以來時々震動して已まざるより人心恟々として今に其堪に安んずる能はざるもの故に入晝夜に及べり。○地裂け水濁る 今回の震災にて最も甚しきは各所に市二尺乃至五尺長さ數十間より數百間の間縫裂を生じ砂泥を噴出せるもの多く或は平面上に口徑八九尺の穴を生じたるもあり或は田畑に二三尺位宛の凸凹を生じて波濤の形狀を爲すもあり殊に井水の濁れて飲料に窮するは市民に就て第一の困難あり今立郡舟津村長泉寺元三元大師境内の源泉より湧出せる水は從來近傍の田面二十餘町歩を灌漑し兼ねて飲料に供したるもの多からざりしに今回全く涸渇して灌漑は勿論飲料の途を失ひたり其他之に類する被害甚だ多し。○通常縣會 當時開會中ありし二十五年年度通常縣會は今回の地震によりて一時休會せしが明五日より開會するよに定まれり。

○福井災信

福井市及郡部に於ける震災被害の概數は三十日及三十一日の本紙お誌したるが今又同地よりの通信に依りて其の一斑を得け以て全般を知るに便ならしむ。○往來に戸板 を列へ或は河原に箔を布きて一夜を明かせしもの多し甚しきは蒲團一枚を纏ひて往來の中央に臥せしものあり各戸の軒には空しく高張を用せるのみにて人は居らず。○地裂く 元勝見地方より中の馬場、觀音町、新屋敷邊にて地裂け長さ數丈の間斷然たる物音と、も或は開き或は閉じし其裂け口より土砂泥水を噴出し屋下まで裂け來りて物ずさまじきと云ふべうもあざざりしか中にも觀音町の鎮徳寺邊にては水の湧くこと至て甚だしく泥砂一面庭前を溢れ石を布きたる處などは其の布石とも裂け居たり又た監獄署前及び大名町あても土地の裂けたる處ありたり。○井水 市内の各井戸水は俄に増水せしめれば又俄かに濁るもありて元形の儘なるは一もなし。○美人の生理 悲惨を極めたるは元地蔵町なる一少婦が地震の際同家の倒るゝや行衛知れずなり爲めに家内のもものは氣も頓倒半狂半亂の体にて氣を揉み居たりと云ふ。○大佛の損傷 元西山町の大佛は其の石像に縱横割筋を生じたり。○兩別院 東西兩別院とも別段に異状なく西別院は經堂及納屋の壁少しく墜落したると庭前の大なる石燈籠の轉覆せしと其傍なる手洗鉢の傾斜したる迄なり。○休業 開會中の福井縣會は二十九日だけ休會し、福井小學校は破損のため一日まで、師範學校附屬小學校は破損につき當分の内何れも休校したりまた市内各小學校にても大破損ある向きもあり且つ生徒の登校なきため何れも休校し居れり。○市役所の救助 市役所は震災に罹りし貧民に握り飯と味噌などを救助せしが潰家半潰共一月につき人口平均四名と見做し救助せしに其人員一千餘名あり引き續きて本日は米を救助し成規の如く男子には一人三合女子小兒には二合つ、給與したり。○ランパ禁止 其筋より三日間ランパを照し大火を燃くことを慎しむ注意せり。○驚も亦た震災に罹る また當日勝見の入口なる橋の際にて一羽の鷺が一搖り揺られて楓の大木にあたり其儘即死。○帆柱折る 坂井港に繫泊し居たりし船の帆柱は悉く折れたりしと同地より歸りし人の話。○今日の附録 今日『日本』は本紙八頁の外に「萩の月」と題せる冊子體の附録あり尤も地方行の方は郵便の都合に由り折込みたる儘にて送送せり其製本の注意は第一頁の社告を一覽せ。

が地震の際同家の倒るゝや行衛知れずなり爲めに家内のもものは氣も頓倒半狂半亂の体にて氣を揉み居たりと云ふ。○大佛の損傷 元西山町の大佛は其の石像に縱横割筋を生じたり。○兩別院 東西兩別院とも別段に異状なく西別院は經堂及納屋の壁少しく墜落したると庭前の大なる石燈籠の轉覆せしと其傍なる手洗鉢の傾斜したる迄なり。○休業 開會中の福井縣會は二十九日だけ休會し、福井小學校は破損のため一日まで、師範學校附屬小學校は破損につき當分の内何れも休校したりまた市内各小學校にても大破損ある向きもあり且つ生徒の登校なきため何れも休校し居れり。○市役所の救助 市役所は震災に罹りし貧民に握り飯と味噌などを救助せしが潰家半潰共一月につき人口平均四名と見做し救助せしに其人員一千餘名あり引き續きて本日は米を救助し成規の如く男子には一人三合女子小兒には二合つ、給與したり。○ランパ禁止 其筋より三日間ランパを照し大火を燃くことを慎しむ注意せり。○驚も亦た震災に罹る また當日勝見の入口なる橋の際にて一羽の鷺が一搖り揺られて楓の大木にあたり其儘即死。○帆柱折る 坂井港に繫泊し居たりし船の帆柱は悉く折れたりしと同地より歸りし人の話。○今日の附録 今日『日本』は本紙八頁の外に「萩の月」と題せる冊子體の附録あり尤も地方行の方は郵便の都合に由り折込みたる儘にて送送せり其製本の注意は第一頁の社告を一覽せ。

○福井縣震災の調査 去る五日福井縣廳にて詳細なる同縣下各部震災被害取調を了したるに人家の全潰五百七十二戸、半潰五百四十八戸、破損二千七百四十戸、土藏の全潰二百六十九戸、半潰二百四十三戸、土藏全潰二百六十六戸、四十即死十一人、負傷六十五人、溺死七人、時、新

○震災の地震 去廿八日同地は朝をたさ少しく雨ふり午前六時十七分に至り轟然震動を發せしより市民は難を戸外に避くるや屋内に積み重ねたる器物等は悉く墮落して破壊するあり處に因ては地龜裂し畑りぬき井戸の竹管は割けて噴水せざるに至れり門高柳等は悉く倒れ國幣神社氣比神社境内に於て大小石燈籠六十七基倒れたり一時は非常の騒動にして六時廿八分に至り震動少しく止みたるも五分若くは十分にして小震動ありしかば人々皆恐怖の念止まず狼狽するの六時五十分西北より一陣の疾風來つて震動に和し今尚ほ小震あり云々個は是同地より同日七時發の通信一四

○越前の山崩れ 福井縣下越前國大野、今立の二郡の同國東南隅に在りて南方に美濃國本巢、大野二郡に押し過日來記載せる夫の根尾谷、白山杯の在る所に接續せる地方あるが去る廿八日の大地震あるや大野郡上庄村若生子地下蘆谷と稱せる所の山腹長五百五十六間四尺、上幅三十五間二尺、下幅七十三間二尺の間一面に崩潰し其崩れ落ちし土砂は樹木の生立ちし徳兵衛川と埋めて全く水流と堰止めしり同地方の住民の今にも夫の大和十津川郷に於るが如き慘狀を現さんりと大に狼狽し近傍並に該下流の各村落に急報せしめ下流の者も此報と得て騒ぎ立ち取あへず各村より數名宛現場に駆け付けて見しに其邊の住民の普高所の安全ある場所を避け堰止められし所の泥々水溜りて已に一面の泥海となり同日午前十一時三十分頃に至り自ら幅四間半許の水路と開き溜せる水の一時に流れ落ちし爲下流兼邊にては平水より増ること六尺餘に及びし由にて水の溜溜せる所は深さ五丈一尺四寸に及び堰止められし處より上流四百間程の間は恰も湖の如くありて波を打ちて懐しく爲に沿岸の崩潰せしもの十二箇所あり又今立郡上池田村の山岳も數十箇所崩潰し夫がため同村野尻と谷口との間に於て足羽川と堰止め其後漸く川幅十分の一だけの口開きて溜水と通せしも尚山と山との間に長さ二百間、幅四十間、深さ八九間の湖を生じ其中に長さ七八間、幅五六間許もある礫石數個顛壓しりと云々

○豊橋の特報 三州海美郡豊橋町に於ける今回の地しんに就き同町通信員の 昨日付凡て特報する所を見るに曰く今廿八日午前六時卅分より卅七分迄大地しんありしが今回の地しんは實に安政以後始めての大震動にして爲に町内の家屋は或は仆れ或は二階を落され或は

●福井縣下通信 (十一月十四日發)

○震災 會縣下の震災は前便にも通信せしが其最も激烈なりしは今立大野兩郡の東部美濃國に隣接する地方にして其災害の甚しき是を岐阜愛知に比して劣る事なき有様にて死傷人倒家等比較上頗る多く殊に大野郡温見、熊河地方今立郡美濃俣地方の如きは全村殆ど潰壊し山岳崩落し大野郡西谷村にては巾一尺乃至四尺許り長さ三里余も間斷なく地面龜裂し美濃の國境まで貫通したり又今立郡上池田村に於て長百三十間巾五十間の山地陥落し一小湖を現出したるものあり其他山岳の崩壊して河流を横斷したるあり生き残りたる住民等が野外に露宿する等奇異の現象 今回の大地震にて大野郡西谷村大字温見の池端甚右衛門方に於て家族二十一名ある内老年の父某が壁に沿たる床の上に臥し居りしが轟然たる響に家は飛び行きて已れと床とのみ其處に止り而して家の飛び行く時毫も身体に觸れずして家へ遙に二十五六間を距りたる處に至り依然舊形の儘存しありしと此他同地にては家屋の礎より五六間も距りたる處へ飛び行きて少しも倒壊せざして依然たりしもの五六戸ありしと

○荒嶋岳の鳴動 縣下大野郡第一の高山たる荒嶋岳は去る八日より時々雷鳴若しくは砲聲の如く鳴り響きけるを以て同地方の人民は何れも胸をどして安心せざる模様なり

○福井地方の地震通信 福井市の某々諸氏より本社員の許へ寄せる信書に廿八日以来の地震状況を報せる略を掲げんよその一曰く前便端書に於てすでに承知の事と存しが信書日の慘況は何より上げぬん歎賞に途方暮るゝばかり我町内(元外地藏町二十二軒)にても全潰半潰(僅かに三軒無事の者なり)と申すが中にも小生宅と某氏の宅は瓦屋根なりしをもて半潰と云へ損害甚しその他御指町志比口等の名舊町の慘狀は目も當てられずお旗町などよての彼方に三軒此方に四軒七軒將臺倒はし潰せるも大小震はあかくに止まざる

のみならず時とらうく大地の鳴動をよるよる人心驚くを極め全市殆んどこの難に罹らぬは莫く概して半潰れと云ふも可にして新に建てる縣會議事堂へ破損を免がれりしは是にて堅牢の建物視せられたる地方裁判所も破潰し道路も諸處に破裂を生じて泥砂を吐き市中の人民はつれも街上又は後庭へ出で僅に生命の安全を謀る有様實は何れも角ども云はれ併し朝天地震にて火事に爲らざりしは不幸中の大幸福と存じ小生も新聞社に従事して多少地震の慘況を見聞せる者か斯ふ驚ては爲らぬと充分膽を据ゑいへども前便に云ふんが如し

●越前の山崩れ 福井縣下越前國大野、今立の二郡、同國東南隅に在りて南方の美濃國本巢、大野二郡に接し過日來記載せる夫の根尾谷、白山杯の在る所に接續せる地方あるを去る廿八日の大地震あるや大野郡上庄村若生子地内下蘆谷と稱する所の山崩れは百五十六間四尺、上幅三十五間二尺、下幅七十三間三尺の間一面に崩潰し其崩れ落ちし土砂の樹木の生立ちし徳眞名川と埋めて全く水流と堰止めしうべ同地方の住民は今にも夫の大和十津川郷に於るが如き慘狀を現さんりと大に狼狽し近傍並に該下流の各村落に急報せしめ下流の者も此報を得て騒ぎ立ち取わへず各村より數名宛現場に馳付て見しに其邊の住民の普高所の安全なる場所を避け堰止められし所の泥溜りて已に一面の泥海と成り同日午前十一時三十分頃に至り自ら幅四間半許の水路を開き溜せる水が一時に流れ落ちし爲下流壩邊にて水平水より増ること六尺餘に及びし由にて水の溜溜せる所の深さ五丈一尺四寸に及び堰止められし處より上流四百間程の間ハ恰も湖の如くありて波と打ちて凄しく爲に沿岸の崩潰せしもの十二箇所あり又今立郡上池田村の山岳も數十箇所崩潰し夫がため同村野尻と谷口との間に於て足羽川と堰止め其後漸く川幅十分の一だけ口開きて溜水と通せしもの山と山との間に長さ二百間幅四十間深さ八九間の湖と生じ其中に長さ七八間、幅五六間許もある巖石數箇傾倒しありと云ふ

●豊橋の特報 三州渥美郡豊橋町に於ける今回の地しんに就き同町通信員の 昨日付凡て特報する所を見るに曰く今廿八日午前六時卅分より卅七分迄大地しんありしが今回の地しんは實に安政以後始めての大震動にして爲に町内の家屋は或は仆れ或は二階を落され或は瓦を跳ね飛され即死及び負傷者其數を知らず又藥瓶悉く毀損し及び酒樽破裂して數百圓の損害を被りたる藥店及び酒店等あり其慘狀目もわてられず鐵道線路及び電線の毀損も多し瀛車並に電信も不通となりたり尙詳細は後報

●岡崎の特報 三州額田郡岡崎に於ける地震は近來稀なる大地しんにありしが絶て人畜の死傷とてはなかりし模様なりしが尙詳細は追て報道すべし

●福井地方の地震通信 福井市の某々諸氏より本社員の許へ寄せる信書に廿八日以來の地震景況を報せる略を掲げんよその一曰く前便拙書に於てすでに承知の事と存ひしが倍當日の慘況は何より上げぬん歎實に途方暮るはかり我町内(元外地藏町二十二軒)にても全潰半潰(僅かに三軒無事の者なり)と申すが中にも小生宅と某氏の宅の瓦屋根なりしをもて半潰と云へ損害甚しその他餌指町志比口等の名舊町の慘狀は目も當てられずお旗町などよての彼方に三軒此方に四軒七軒將基倒はし全潰せるも大小震はあかくに止まざる

のみならず此と云く大地の鳴動するよ人心實に怖くを極め全市殆んどこの難に罹らぬは莫く概して半潰れと云ふも可にして新に建てたる縣會議事堂(ハ破損を免がれり)しは是にて堅牢の建物視せられたる地方裁判所も破潰し道路も處處に破裂を生じて泥砂を吐き市中の人民は必づれも街上又は後庭より出で僅に生命の安全を謀る有様實は何れも角ども云はれを併し朝天地震にて火事に爲らざりしは不幸中の大幸福と存じ小生も新聞社に従事して多少地震の慘況を見聞せる者が斯ふ驚くは爲らぬと充分腹を据ふるはへとも前便にてせんか文字を並べしよや一向に辨るも無くこの書面をても相違たらけざる可し伊摺察と云ふ今日人の訪問も變り無かりまか

と云ふは家内中に怪我無かりしかと問へる通語よて家や土藏の潰れし事破れし事を變はりしと云ふにあらす以てその一般を御推察下されたまふ(十月廿八日)○その二曰く前略福井市にては元勝見地方より中の馬場觀音町新屋敷邊橋北の部甚しく地裂け長さ數丈の間轟然たる物音を共々或は開き或は閉ち裂より土砂泥水などを噴出し屋下までも裂け來りて物運まじること云ふふもあらざりしが中にも觀音町の鎮徳寺邊にては敷石までも裂けたる處あり之は山町の石大佛は縦横に繋筋を生じたり橋南の部にては足羽山麓は割合劇しからぬ姿にて數十間を離れたる東方より劇しく市を離るゝ十丁ばかり東なる字下馬なは九十戸の七十戸まで全く潰れたり土藏は表面こそ全潰半潰を免かれたるが多しと稱すれどもその内部は全市十中の八は破損せる莫く(二間三間までの者はその以上の者に比され割合輕し) 獎家にては土藏四ヶ所の内三ヶ所はその壁壓落し油の貯藏所は流失して土藏の中を穿ること深さ五寸ばかりまた庭園中地盤の割れたる箇所ありてその割れ目(巾一丈)より土砂を含み噴水すること高さ四尺ばかりも噴りたり云々 (未完)

福井縣下震災の状況 (承前)

(四) 道路堤防の脱落せし箇所も坂井大野南條今立の諸郡共に數ヶ所あり就中今立郡上池田村の谷間には道路幅一尺五寸通り足羽川へ脱落し同川の過半を埋めたるもの延長五百三十間あり土橋石橋の墜落又は破壊せしもの今立其他の郡にも數ヶ所あり吉田郡には大橋の中央回みたるものあり

(五) 山崖の崩壊は吉田大野南條今立丹生郡に數十ヶ所ありて中には一時道路を塞塞し甚しきは修繕を爲すに非れば通行を爲し難き場所あり大野郡穴馬街道の如きは其最たるものにして危険も亦甚しかりき即ち五箇村の者二人宇元山と稱する高さ三百間餘の巖山の麓九頭龍川に沿ふたる山地を通行中彼の初度の大震と共に山腹二百間餘の高所より幅七間許の岩石崩れ落ち一人の身體に打中ると見る間に本人の所在分明ならずと聞くや駐在巡查は人夫を率ゐ來て巖石を取除げんとするも重層二丈許もありて容易に除け盡す能はずして一時其死體を發見し得ざりし又富田村の者三人下穴馬村鷲ヶ倉なる道路を牛を牽き通り掛りし際該道路俄に崩壊せし爲め牛と共に九頭龍川に陥落し其一人と牛とは異狀なきも他の二人は所在不明の處相尋で其死體を發見せり

又五箇村内深川内山宇三館と稱する處は常より崩壊し易き難所なるが初回の強震に當り土石崩落路の全面を埋め其厚さ三尺乃至一丈に至り堅と路と一様の體に變じ爾後頻頻震動の爲め危険甚しき故より之を避くるの處置を施し又同郡芦谷山と稱する山の半腹高さ七十間の處より上幅凡そ八間下幅凡そ七十間許土砂崩壊し眞名川を横斷して一時其上流は湖水の狀を爲したりと雖も滯水自然に崩土を浚へ流せしより其上方下方とも幸に危害を免かれたり

今立郡上池田村の尾幸谷と稱する處に於て部子山の地嶺山腹數十丈の高處より崩壊し溪流及び道路を壓塞し爲めに長さ五十間二尺幅三十一間二尺深さ凡そ五間の溜池を生ぜし其水は崩土の中を滲りて本溪流に流下するが故に水量敢て増加することなし同村大字廣瀬に於ても亦山崩の爲め足羽川を埋め其長さ二十六間半幅五間にして一時は全く水流を止めしも程なく其中洲に沿ひ細く水路の通せしを以て上流の淀めるのみにて危険の虞なきに至れり

大野郡西谷村は山僻にして希有の難所なるが是亦穴馬街道に並ぶの被害にして巢原より熊河に達する村道二里間中凡そ三十丁許の間高さ八十間乃至百二十間幅十五間乃至四十間の山岳崩壊四ヶ所あり尙ほ岩石墜落息せず危険甚しきを以て之れが通行を禁じて迂路を取らしめ尙他に崩壊二ヶ所ありて肥沃の山畑を荒蕪となしたり

大野今立二郡の山嶽崩壊等斯の如く甚しきは蓋し今回震動の中心たる岐阜縣大野郡等に連接する故なるべし

(六) 大野郡面谷嶺業場は之を圍繞せる諸山の鳴動と共に一大震動を起すや非常の音響を以て無數の巖石轉落し人々周章狼狽爲す所を知とざる有様なりしが保護手配の届きしより該嶺内の抗夫等二百六十名無難に出坑するを得たり

(七) 若狭の各郡に於ては納屋の全潰一棟ありし外は家屋の少しく傾斜せしもの壁庇等の破損せしもの數戸あり其他石燈籠等の類顛倒多少ありしのみにて著しき被害なし但地所に在ては日向湖の岸に幅一間乃至二間長さ二間乃至六間の缺壊四ヶ所を生じ又道路田畑等の微裂して水又は泥沙を噴出せしは數ヶ所あり (未完)

福井縣の被害統計 福井縣廳より其筋への報告に據れば同縣震災の被害は死亡十二人、負傷九十八人、家屋全潰一千七十五戸、半潰二千七十三戸、破損四千六百三十二戸、道路破裂二百二ヶ所、橋梁損落十二ヶ所、堤防崩壊二十九ヶ所、山嶽崩壊六十四ヶ所なりと云ふ

福井の福井なし 今の越前福井の其昔北ノ莊を唱へたるを北ノ莊の名の柴田勝家など反叛したることありて延喜を北ノ莊の湧出する福井と云ふ井戸のあるを幸ひ其惡しとて天然水の湧出する福井と云ふ井戸此頃を幸ひ其名を取りて福井と改めたるものなり其井戸此頃を幸ひ在せしに今回大震の爲め井水涸れ遂に福井を失ひたりと云ふ

重復の麻痺も顧す茲に採録す
 十月廿八日午前六時四十分俄然大地震動す前日より過度の驟を覺え夜來降雨ありしが茲に至て震災となれり最も激烈なるは初回にして其後時々暗響震動已まず天候何となく穩かならず曇るが如く晴るゝが如く満目慘憺の色を帯びたり其強震に當ては瓦石飛び壁落ち崩れ墜倒れ甚しきは山峯峻嶺道路線裂を生ずるに至り老少驚走争ふて戶外に出で難を避くるも過て負傷を爲すあり歴死する者あり瞬間の變態實に名狀すべからず其最も甚しきは福井市、足羽郡にして之に亞ぐは吉田郡とす之に由て縣下を通觀するときは今回の激震は該郡市を中心として之より四方に延き漸次震力を弱めたるものゝ如し故に若狹に在ては被害も亦隨て輕微なり彼の初回の強震後は復た斯の如き劇烈のものなしと雖も一日數十回に涉り震動あるを以て人心恟々恐怖の餘、種々の妄想を起し訛説を傳へ甚だ不安の情況あり家屋の潰倒せざるものも雖も路上に席を敷きて寢臥をなし或は田圃河原等に露宿し偶々家に在る者も戸建具を開放して逃脫し備へ務めて避難の準備を爲せり是れより先き早く警戒を加へ湯屋、鍛冶屋等の焚火を止め夜間は洋燈を用ひざる事を諭せしより各戸總て提灯を點し交互注意せしを以て絶て出火等の事なかりし

郡には堤防の裂幅凡そ二尺五寸にして長さ八百間許のものあり或は幅三尺にして長さ八十間許のものあり吉田郡には廣、深共に五寸乃至二尺許にして凡そ二町間許接續したる内泥砂を噴きし所ありて凡そ二町歩は恰も盛土を爲したる如き觀あり大野郡勝山道の福井に近き所十間許地盤四陷深さ五六寸ありて溝渠の如き形をなし坂井郡内には凡そ九十間許の裂地中五間許は他の道路面より低下すること二尺其餘は左右幅三尺程割れたるあり今立郡内には土橋の橋杭地中に埋没せしより橋は墮落し其前後地盤の裂けたる所數十ヶ所あり
 丹生郡内には田畑に一畝十四歩の凹處を生じ又其近傍田畑に廿歩と六歩との凸處を生じたるありて其最低最高は各四尺なり裂地の最も甚しきは大野郡西谷村の山地にして其裂目幅一尺乃至四尺深さ五寸乃至三尺にして間々龜裂に止まるものもある其線は大野郡河の傍山より起り大字温見を聯絡貫通し延て美濃の國境に至り長さ凡そ三里に達し又道路畑地等に所々四寸乃至五尺平面より墳起せしあり又深さ七尺幅二間長さ二間半許の穴を生ぜしものあり大野郡北郷村内宇神明ヶ谷には竹藪地破裂し一尺四方の坑口數ヶ所に現はれ泥水を噴出すること殆ど五時間及べるものあり
 (三) 井水の黃濁して飲料とならざるもの多く或は増したるあり減じたるあり甚しきは全く涸乾せしものあり又稀には濁水反て清水に變じたるものあり今立郡の如きは井の埋没せしもの廿二ヶ所あり殊に舟津村長泉寺なる大清水池(面積百六十坪)は往古よりの湧水にして耕地反別二十町餘に灌漑するのみならず飲料水に供する二十餘戸なりしが地震の爲め清水地中に入り殆ど一滴の水を殘さず乾涸せり(未定)

同廿九日は晴天にして稍強震の虞を減じたるも尙は時々地震動已まず又時としては怒濤の如く或は砲聲の如き響を聞くことあり此日は午後に至り一時雨となり又薄暮より南風起り漸く強風とならんとするの模様あり此變候は或は震動を已むべきかの望みありしも唯其間斷を久しからしむるのみにして未だ全く已まず然れども其地濕ひ風冷かなると前夜の疲勞とに因り戸内に入て睡眠を爲すもの多きに至り
 同三十日は天霽れ風穩かなるも數回尙微震あり或は時に少しく強震を交ふるを以て戒心休まずと雖も其久しきに涉り震動に馴るゝを以て被害少き家に在ては漸く業務を執り破損の家屋も多少補理に従事せり此日強震の際摺付木相摩擦し發火したるを直に打消し火災を免かれたるものあり
 同三十一日は洗滌、機業其他商業等過半平常に復せしも時々地震動前日に異ならざるを以て人々未だ危懼の念を去らず
 十一月一日以來も同じく震動あり且つ時としては暗響を聞くことありしが其度數は漸次減少に傾けり被害に付き其梗概を擧ぐれば則ち左の如し

(一) 家屋潰倒の甚しきは足羽郡木田村にして一字に七十戸あり福井市の如きも一町内二十戸又は二十戸ありて半潰を加ふるときは三十七月の多きに上るものあり
 官衙校舍等の破損せし内其重なるものを擧ぐれば縣廳構内には土藏の半潰又は破損あり福井地方裁判所には人民の控所潰倒し監獄には工業場の潰れたるあるも囚徒には負傷なし師範學校は全體の破損にして中學校は化學器械室及び倉庫を破損せり其他の學校にも潰倒又は破損せしものあるも生徒の登校前にありしを以て幸に負傷者を見ざりし

福井縣下震災の状況
 愛知、岐阜兩縣下に於ける震災の模様は既に報道しありしが福井縣に至りては其の詳報を得ず心ならずも其の儘に打過さしが今左の詳報を得たれば

(二) 道路堤防田畑等地盤の拆裂は福井市を始め越前八郡何れも之れあらざるなく大抵直線又は波線狀を爲し短きは四五間長きは數里に涉り其割れ目は幅三四寸のもの多しと雖も中には三尺の廣さに及ぶものあり強震の際一時其局部より水又は泥砂を噴出せしもの少からず福井市の道路には六七寸乃至一尺陷落し其長さ二丁餘のものあり足羽

●福井震災の概況

客月十八日附より同縣の其の筋へ達したる報告に依れば同縣に於ける今回の震災前兆と云ふべきは井水等の乾涸増減に關する事として今立郡舟津村長泉寺の大清水池に本月九日其の地の人民該池中を浚ひ凡ろ二尺餘土砂を増揚げたるは池底數ヶ所に湧水の兆しあるを認め翌十日午後五時より凡ろ一寸許の水湧出し其の後漸次増水し同十四日に至り殆んど舊より復したる模様あり、又た福井市足羽山麓の岩石中より湧出して市中一等と稱し近傍五六戸の飲料に供せし淨水の震災二三日前より稍や減水し傾き激震後の甚はだしく濁り水は變じ殆んど濁止の恐れありしが本月八日より漸次湧き始りたるも猶ほ少しく濁りを帯びたりし同十三日に至り元の清水を復したり然れども湧出の量も未だ全たく平常を復せざり又た坂井郡本郷村清水平なる部落住民の飲用水たる清水溜も激震以來漸やく湧出を止め目下全く涸渇し人民困窮せり尤も此れは安政年間の大地震の時一旦涸渇せし事あるも爾來又た漸やく再湧復舊せしものありと聞けば今後亦た再湧出の望みあるに似たり其の他各戸の井戸の如き一時或は濁り或は減じ又た涸かんとせしもの一般も追々舊を復せる模様にして福井市の如き増水せしもの最も多きと居れりとの事あり

●福井市惨状の概況

左の如し
 家屋の崩壊せしもの全潰八十六戸、半潰七十九戸、土藏の全潰二十六棟、半潰三十六棟、納屋の全潰三棟、又死者ハ三名、負傷者二十二名、裂地三ヶ所にして其町名を掲げハ家屋の崩壊せしハ花月上町五戸、吉野上町十一戸、同中町七戸、下町三戸、老松上町三戸、同中町一戸、春山上町二戸、浪華上町一戸、寶永上町九戸、江上町一戸、相生町一戸、港上町八戸、同中町五戸、照手中町一戸、日出上町五戸、清川下町七戸、寶永下町一戸、同中町一戸、清川上町二戸、同中町二戸、松ヶ枝中町二戸、同中町七戸、水川上町一戸、土藏の壞れたるハ春山中町一棟、老松上町一棟、照手中町二棟、同中町一棟、同中町一棟、佐久良上町一棟、浪華中町二棟、同中町三棟、尾上上町一棟、同中町一棟、吾妻上町一棟、寶永上町一棟、手寄下町一棟、島下町一棟、此他に被損せし家屋ハ幾千百戸たるを知らざれども其著しきものを擧げハ高等小學校支那師範學校、家屋全部中學校化學器室同倉庫裁判所民事控所一棟、縣廳土藏監獄内工事場三ヶ所、寶永校運動場全部、又裂地ハ元堂形往來幅二間長サ七八間の間に數ヶ所、福井病院前數ヶ所、高等小學校前數ヶ所、毛矢町三島氏横敷ヶ所、又縣社の破損せしハ佐佳神明兩神社、社内大小石燈籠悉く轉倒し市内各神社も大破損せざるハなし、又各寺院鐘鐺堂の破損せるもの甚だ多かりし

ぬ夜間洋燈を用ひざることを諭せし由り各戸總て捕燈を消し安火の虞なからんことを注意せり家屋損傷の甚多かりしは足羽郡水田村にして一大字に於て七十七戸、福井市も亦一町内に二十一戸之に半潰を加ふれば三十七戸の多きに及へり
 官新學校等の重なる被害は照臨内に於ては土蔵の半潰及破損あり福井地方裁判所に於ては人民控所を監獄若に於ては工業場を潰倒し(凶徒には死傷なし)尋常師範學校は其全潰破損し中學校は化學器室及倉庫破損し其他小學校の潰倒或は破損ありたるも生徒學校前の事なりしを以て當其災害に陥らざりしは誠不幸中の幸と謂ふべし
 又福井市及足羽吉田大野三郡内に於ける罹災者中赤貧にして正に生活の途を失はんとする者に以て直に米等の手當を爲し夫々救助を施行せり爾後二十九日以來漸々強震の度を減したるも時々之の變動今

仍ほ歇まず或は降の響を聞くこと數回にして間々又不時に強震あるの状ならず或は強風劇雨と稱し又或る時は氣候最も暖に過き尙も梅雨の如き驟を呈して電光雷鳴交々起り後夜に至るに至る等氣象の變遷常ならず因り各自未だ危懼の念を斷つに至らず尤も是より先き震動期在毎日の久しきに漸るを以て各々其防禦に注意を致し去月三十日より翌日一日まで大極平常の如く業務に就き且つ破損修繕に着手する者あるに至れり
 其他山麓の崩壊橋梁の損傷、道路堤防、田畑等の破壊陷落或は龜裂を爲せし箇所實に夥しく中に福井市立立郡に於て其最と變動の甚しきを見るは蓋し今回震災の中心たる岨早縣下大野郡等と連接する故なるべしと云ふ而して若狭國一帯は越前國に比すれば被害輕し即ち去月二十八日以來本月九日までこの調査に係る被害の數を擧ぐれば左の如し

市郡名	人死傷	家屋	其他	道路	橋梁	堤防	山崩
福井市	二二	一八	一	一	一	一	一
足羽郡	一	一	一	一	一	一	一
吉田郡	一	一	一	一	一	一	一
大野郡	一	一	一	一	一	一	一
丹生郡	一	一	一	一	一	一	一
今立郡	一	一	一	一	一	一	一
南隆郡	一	一	一	一	一	一	一
教賀郡	一	一	一	一	一	一	一
三方郡	一	一	一	一	一	一	一
遠敷郡	一	一	一	一	一	一	一
大飯郡	一	一	一	一	一	一	一
合計	二二	一八	一	一	一	一	一

(備考) 本表の外今立郡に家畜の死したるもの一頭あり又家屋建物の破損は大破と之に次ぐものも多し道路の破損及堤防の崩壊は孰も長サ三間以上のものを掲げ堤防には破損せしものをも加へ橋梁は損傷の甚しく又は墜落せしものを取り山崩は縦横の別なく五間以上のものを掲げり(福井縣)

習ふに由りては或は同じし者もあらん又其等に出し屋下までも裂け來りて物すも其等法ふべしあらざりしか中にも觀音町の鎮徳寺邊にては地の湧くこと至て甚たしく泥砂一面庭前に溢れ石を布きたる處も其の布石ももに裂け居たり又た監獄署前及び大名町にては土地の裂けたる處ありたり

○井水 市内の各井戸水は俄に濁水せしめられ又俄かに濁るもありて元形の儘なるは一もあし

○破壊 當市木田より足羽郡下馬村に至る百間の堤防は地震の爲め非常に破壊せしと○美人の生理 爰にまた悲惨を極めたるは市元地蔵町ある川畑如何(二十年)といへるは二十八日大震の際全家の倒るゝや行衛知をなり爲めに家内のものは氣も顛倒半亂のにて氣を揉み居たるどころ凡そ二時間許をて後埋もれたる家居の下より掘出したる聞く

○大佛の損傷 同市元西山町の大佛は其の像に縦横響筋を生じたり

○兩別院は安全 同市の東西兩別院とも別に異状なく西別院は經堂及び納屋壁少しく落したると門前の金鐘一ツ倒れたるのみて東別院は庭前の大なる石燈籠の轉覆せし其傍ある手洗鉢の傾斜したるまであり

へたる者二あり其一是官制改正の前後より起りたる既定歳出と官制改正との關係問題其二是夫の覆牒變更問題あり先づ其第一の問題を記さん山縣伯の幕中に其人ありと知られたる其公法學者及び其他二三の人々は憲法第六十七條の三種は第六十四條の例外にして此歳出は協賛を要せしめて然其歳出豫算成立する故に常に協賛前に確定するものあり従て此種の豫算は勅令法律の定ると同時に既定とあり他の一説の一度豫算をきりて國會を通過したるものも以て始めて既定と爲るといふが如きは憲法に違反したる解釋あり又此三種の豫算は本來協賛の外にあるを以て國會の行爲に由り豫算不成立に至るも此三種の豫算は決して不成立とせざるも前年度の豫算を遵守するに及びき宜く原案を執行すべしと唱ふ人呼ぶ之を内閣の硬派といふ之に反對するは伊藤井上(義)氏等の解釋にして既定歳出は一度國會の協賛を経て豫算とありたるものを云ひ前年度に定まりたる大權に基く豫算は今年度の既定歳出あり又第六十七條ありて決て第六十四條の例外といふべきにあらざりて毎年國會の協賛を経て(皇室費を除き)は豫算として豫算の協賛を経て且第六十七條の歳出は協賛の幾分を制限せるのみありと云ふに在り松方伯は此説に傾くといふ左れば是等の論議も尙は官制の改正に由りて既定歳

- 第一項 縣會
外金貳千
- 第二條 戶數額
九月迄後期
十月より翌年
日以後期は十日
町村に於て本
合に依り分
本税の歩合は
三十日迄に
第四條 毎年賦
義務を生じ
戸平均額に依
納稅義務の生
附則
第五條 從來
攤り免除し
め新に負擔
限り其市町
十四年度後
前項の賦課
從來納稅せ

若越自由新聞

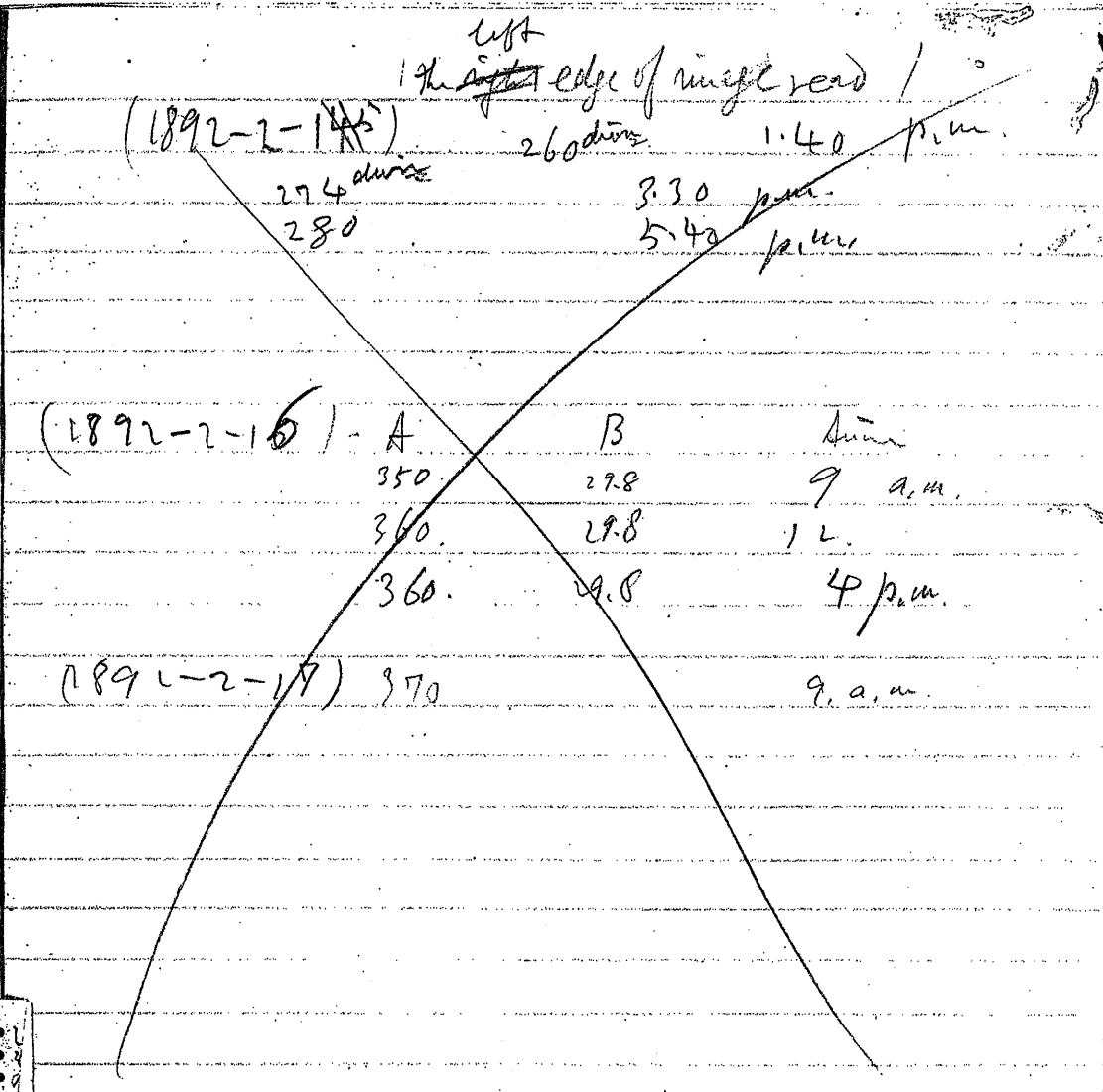
明治二十四年十一月二十日

●本縣の震害調査表 本縣下の震害に關しては追々報道に及びたるが、いまだ本縣廳に於て調査を遂げたるは去月二十八日より本月九日に至る間の震害被害は左の如し

郡市名	死傷		戸數		棟數		箇所	
	人	牛馬	全	潰半	全	潰半	道路破裂	橋梁
福井市	傷死	傷死	全	潰半	全	潰半	延	橋梁
足羽郡	全	全	全	潰半	全	潰半	延	橋梁
吉田郡	全	全	全	潰半	全	潰半	延	橋梁
大野郡	全	全	全	潰半	全	潰半	延	橋梁
阪井郡	全	全	全	潰半	全	潰半	延	橋梁
丹生郡	全	全	全	潰半	全	潰半	延	橋梁
今立郡	全	全	全	潰半	全	潰半	延	橋梁
南條郡	全	全	全	潰半	全	潰半	延	橋梁
敦賀郡	全	全	全	潰半	全	潰半	延	橋梁
三方郡	全	全	全	潰半	全	潰半	延	橋梁
遠敷郡	全	全	全	潰半	全	潰半	延	橋梁
大飯郡	全	全	全	潰半	全	潰半	延	橋梁
合計	全	全	全	潰半	全	潰半	延	橋梁

備考 家屋建物ノ破損ハ大破ト之ニ亞クモノノミチ學ケ道路ノ破裂及ヒ堤防ノ崩壞ハ何レモ長サ三間以上トシ且堤防ハ破裂セシモノヲモ加ヘ橋梁ノ損所ノ甚レク又ハ墜落セシモノヲ取リ山嶽ノ崩壞ハ縱横ノ別ナク五間以上ノモノハ之ヲ數ク

○備前郡の震報
三州備前郡に於ては西尾町に女一人大字村に女一人山崎村に男一人衣崎村に男一人都合四人震死の外に死亡者は無し



○三重縣下の地震 勢州津市よりの特報に曰く、三重縣下は再昨二十八日午前六時二十六分四十一秒より俄然震動を起したるも其震動甚しからざるを以て秒一秒に震動力を高め、忽ち家屋をも轉倒せしめんとする程の強震を始むるに至りしかば起き出たるを震源にありし者等を論せば我れ先きに争ふて戸外に逃げ出す等の狼狽實に名狀し能はざる有様にてありき故に縣下各地に於ける震害の模様は概略左記の如し ▲桑名 廿八日大地震後只今午後七時)までに激強震三十餘回の多きに及び倒家四十餘戸、半潰十戸、即死一名、負傷八名又た郡内にての潰家は二百餘戸 ▲四日市 前報後聞き得し模様は三重勸業會社の負傷者は十七人にて同社は同日より當分の内休業せり製油會社にて機關の破裂せし際、死傷者も多分ありし由なるが未だ其詳細を知るに由なし關西鐵道會社は線路中斷、深川間に於て破壊したる爲め同線車は不通となりしが其後修繕を加へ一旦は全通するを得し又た他は損所を生じ不通となりしが是又修復を加へ一日より全通することとなりぬ ▲鳥羽町 再昨日は前夜來温驟降雨ありて宛かも春雨の如き心地して甚だ寝心よかりしが午前六時四十分突然強震し爲めに土藏數戸潰れ負傷者數名ありしのみにて其他甚だしき損所はなかりし

▲松坂町 の地震は非常なる震動にてありしが其割合には潰家、死負傷者等は尠かりしは不幸中の幸なり ▲山田町 は同日午前七時頃より正午までに劇震は回に及び潰家數戸、其他家屋の大破損等は夥多なり ▲津市 は北勢の如き震害はなかりしも潰家は一二戸に止まり塀の倒れ、壁の破壊位にてあり又た監獄にては早くも囚人を監房より工場に移し看守、押丁看護に怠りなからしかば別に負傷者とはなかりき ▲其他各郡に於ては何れも多少の損害ありしも差したる事はなかりしは實に不幸中の幸にてありし

(left side)		A	B			A	B
1892-2-18	1.40 p.m.	249	24	1892-2-26	8 a.m.	265	
1892-2-19	8.20 a.m.	302	24		noon	258	
	0.0 noon	283			5.30 p.m.	243	
	4.0 p.m.	273		1892-2-26	9 a.m.	275	32.8
					noon	270	
1892-2-20	7.30 a.m.	287			9 p.m.	295	32.6 (B)
	noon	270		1892-2-28	9 a.m.	295	32.8
	7.30 p.m.	252	a train in the night		7 p.m.	287	
1892-2-21	8 a.m.	270		1892-2-29	9 a.m.	303	
	noon	260			noon	294	
	5.30 p.m.	250			2.30 p.m.	280	
1892-2-22	9 a.m.	250			5.30 p.m.	274	
	noon	244		1892-3-1	9 a.m.	285	
	2.30 p.m.	230			noon	275	
1892-2-23	9 a.m.	250			8 p.m.	276	
	noon	238		1892-3-2	10 a.m.	295	
	2.30 p.m.		32.8		noon	290	
	5.30 p.m.	225			5.30 p.m.	280	
1892-2-24	9 a.m.	219	32.9	1892-3-3	9 a.m.	283	
	noon	204	"		noon	272	
	6 p.m.	193	"		4.00 p.m.	264	
		243					
1892-2-25	9 a.m.	244	"				
	noon	249					
	6.30 p.m.	245					

		A	B			
1892-3-4	8 a.m.	256		1892-3-11	8 a.m.	262
wet sultry day	noon	240		(snowed in the		
wind blowing	5.30 p.m.	214	326	(preceding night)	5 p.m.	233
1892-3-5	9 a.m.	198		1892-3-12	9 a.m.	248
(raining)	noon	198		(calm weather)	noon	242
(very wet)	4.50 p.m.	201		(raining)	9 p.m.	222
1892-3-6	9 a.m.	218		1892-3-13	9 a.m.	190
(raining)	8.30 p.m.	211		(violent rain in	noon	185
				the previous night)		
1892-3-7	9 a.m.	200		1892-3-14	9 a.m.	198
(cloudy)	noon	194		(cloudy & windy)	noon	197
windy	4.20 p.m.	189		(calm, cloudy)	6 p.m.	217
1892-3-8	9 a.m.	214		1892-3-15	9 a.m.	239
(clear weather)	noon	205		(clear weather)	noon	232
windy	5.30 p.m.	203		(cloudy calm)	4.30 p.m.	223
1892-3-9	9 a.m.	238		1892-3-16	9 a.m.	246
(clear weather)	noon	232		(clear)	noon	239
	9 p.m.	227		(calm weather)	5 p.m.	236
1892-3-10	9 a.m.	257		1892-3-17	9 a.m.	258
(clear weather)	noon	250		(clear weather)	noon	248
(cloudy)	6 p.m.	241		(calm)	5 p.m.	242

1892-3-18 8:30 a.m. 255
 (rainy, very calm) noon 247
 4 p.m. 242

1892-3-19 9 a.m. 239
 (rainy, calm) noon 234
 4:30 p.m. 229

1892-3-20 9 a.m. 253
 (clear, windy) 1 p.m. 256

(1892-3-21) 9 a.m. 263
 (clear, calm) 1 p.m. 257
 5 p.m. 253

1892-3-22 9 a.m. 262
 (clear, calm) noon 256
 6 p.m. 247

(1892-3-23) 9 a.m. 272
 cloudy calm noon 259
 raining 5 p.m. 252

1892-3-24 → noon 246
 rainy calm → 5 p.m. 232
 clearing, calm

1892-3-25 9 a.m. 243
 (cloudy, calm) noon 232
 4 p.m. 229

1892-3-26 9 a.m. 257
 (clear, calm) noon 252
 4 p.m. 248

1892-3-27 11 a.m. 254
 clear, windy

~~1892-3-28 9 a.m. 286
 (clear) noon 280
 cloudy, calm. 5 p.m. 270~~

1892-3-29 9 a.m. 282
 snowing, calm noon 267
 clearing calm 5 p.m. 256

1892-3-30 9 a.m. 266
 (clear, windy) noon 258
 windy 5 p.m. 256

1892-3-31 9 a.m. 276
 clear, calm noon 270

1892-4-1 (calm, cloudy)	noon	257
	4 p.m.	252
1892-4-2 windy, clear, but very wet	9 a.m.	212
	noon	206
	3.2 p.m.	204
1892-4-13 (rainy, calm)	noon (calm)	257
(clear, calm)	4 p.m. (morning)	218
		clear, calm.
1892-4-14 (calm, wet.)	9 a.m.	212
	noon	204
calm, clear	5 p.m.	194
1892-4-15 (calm, clear)	9 a.m. (not moving)	194
windy	noon	184
(calm, rainy, very humid)	4.30 p.m.	176
4-16 (calm, clear)	9 a.m. (not moving)	200
	noon	197
	5 p.m.	202
	10 p.m.	220

4-17	7 a.m. (not moving)	235
	cloudy, calm.	
4-18	9 a.m. (not moving)	200
	calm, rainy	
	4 p.m. (not moving)	193
	(at dark in the morning, rain)	
4-19	9 a.m. (not moving)	184
(clear, calm)	noon	177
	4.30 p.m. (u)	165
4-20	9 a.m. (not moving)	177
(calm, cloudy)	noon	167
	4.30 p.m.	162
4-21	9 a.m. (not moving)	168
(cloudy, sultry)	noon	168
	4 p.m.	163
4-22	8 a.m.	163
(clear, calm.)	noon	143
	4.30 p.m. (morning)	136

1893-10-8

12, 17.

hair hand ^{print} not mark.—, 4.2^m, 5.8^o(chron. 7.13.4L
clock 6.11.0 p.

Only very quiet tremor

1893-10-10, about 8½ p.m.

by watch 8.40.0 p.m.

(watch 9.51.30

(chron. 10.4.0 (next morning)

a very small definite shock. I first noticed
slight rattling of window doors open about
10 sec. came from back of frame(SD (for watch) = -14^m 0^o Oct. 11th noon)